

緊急時対応マニュアル

OUTLANDER



(PHEV)

2025 年型 ~



Version:1.0

はじめに

本書は、OUTLANDER PHEV の乗員救助ならびに事故処理等を行う際の注意事項を記載しています。

OUTLANDER PHEV は高い電圧のバッテリーを搭載したプラグインハイブリッド車であり作業中の取扱いを誤ると、感電など重大な傷害を受けるおそれがあります。

安全に作業していただくために、事前に本書をよくお読みいただき、注意事項を遵守してください。

安全に関する表示

運転者や他の人が傷害を受けるおそれがあることと、その回避方法を次の表記で記載しています。重要な事項ですので必ず読んでお守りください。



警告

記載事項を守らないと、死亡や重大な傷害につながるおそれがあること。



注意

記載事項を守らないと、傷害や事故につながるおそれがあること。



アドバイス



守っていただきたいこと。知っておくと便利なこと。

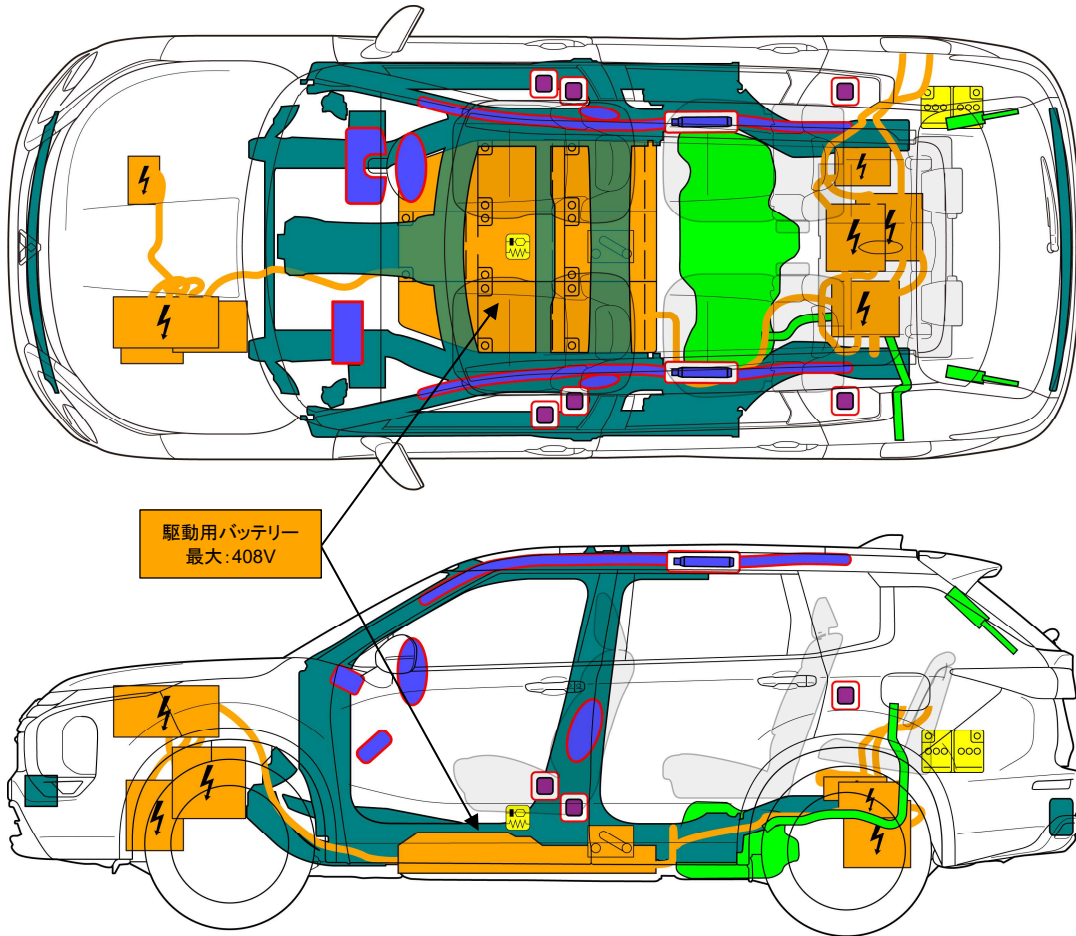
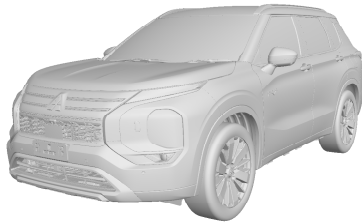
装備仕様の変更等により、本書の内容が被救助車両と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

目次

0.クイックガイド	P.3
1.車両の特徴	P.4
2.電源の切り換え・車両支持箇所	P.9
3.安全に作業を行うために	P.12
4.乗員救助	P.22
5.使用されている液体類・駆動用バッテリーについて	P.26
6.車両が火災の場合	P.28
7.車両が水没している場合	P.33
8.車両の運搬及びけん引	P.35
9.補足情報	P.40
10.使用ピクトグラムの説明	P.48

0. クイックガイド

 <p>MITSUBISHI MOTORS</p>	<p>OUTLANDER PHEV ボディー形状:ステーションワゴン 型式:GN0W 年式:2024 -</p>		
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------



	エアバッグ		エアバッグインフレーター		シートベルトプリテンショナー		SRSコントロールユニット		歩行者保護システム
	転倒防止システム		ガストラット/プリロードスプリング		超高張力鋼板部		注意ゾーン		
	低電圧バッテリー		低電圧コンデンサー		フューエルタンク		ガスタンク		セーフティバルブ
	高電圧バッテリー		高電圧ケーブル/高電圧部品		サービスプラグ		高電圧ヒューズ		高電圧コンデンサー

※車両の最大装備を図で示しています。

ID No. GNW-JNRS-JP02	Version No 01	Version Date 9/2024	ページ 1
-------------------------	------------------	------------------------	----------

1. 車両の特徴

1. 車両外観の特徴

OUTLANDER PHEV の特徴を以下に示しますので1つでも該当するものがあれば、必ず絶縁保護具を着用し作業を実施してください。

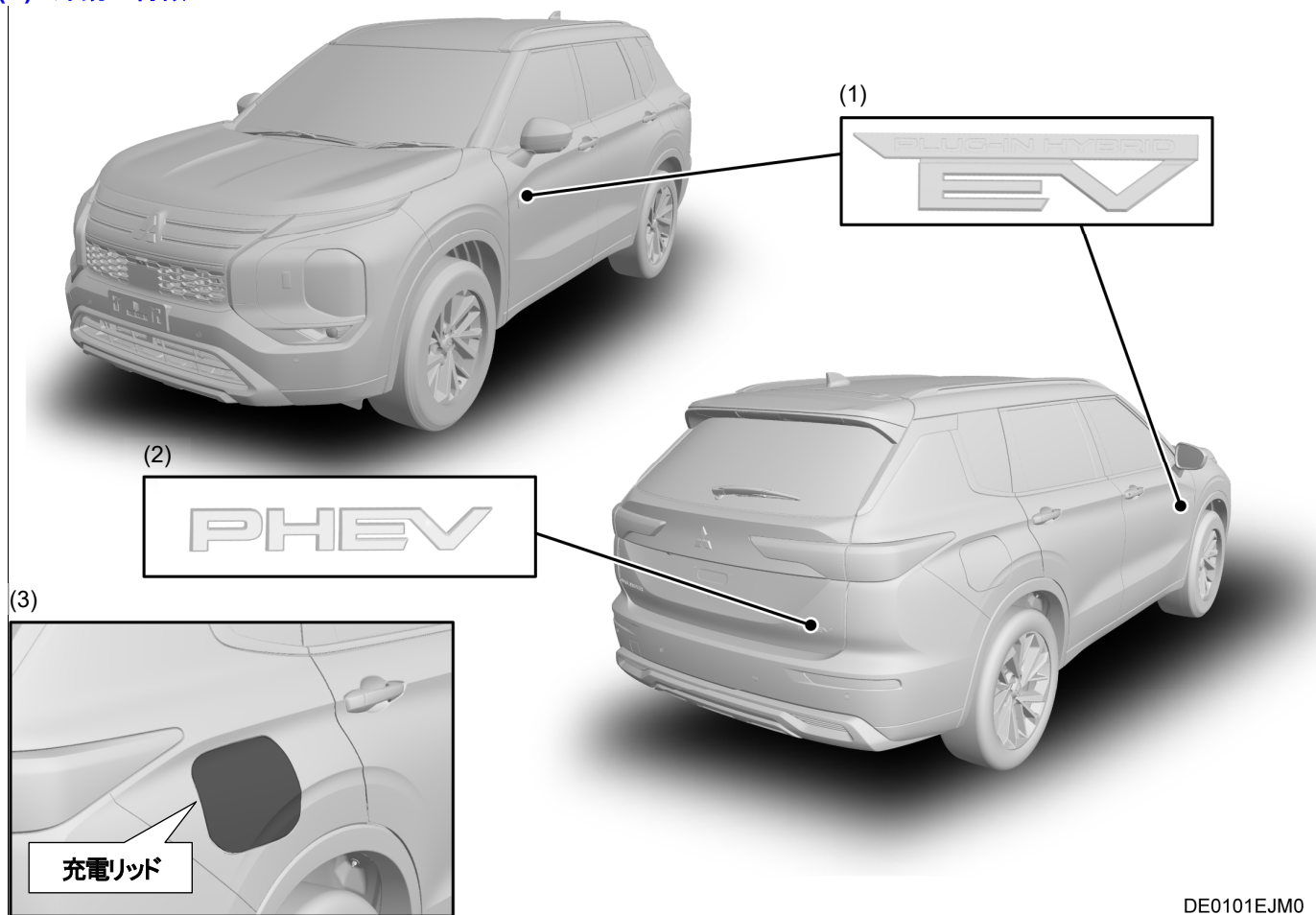
⚠ 警告
車体に触れる場合や触れる可能性のある場合は必ず絶縁保護具(絶縁手袋・絶縁ゴム底安全靴)[耐電圧 650V 以上]を着用してください。

(1) OUTLANDER PHEV の特徴

PHEV (PLUG-IN HYBRID EV) ログマーク ・充電リッド ・車台番号(型式) ・フロントパワードライブユニット(FPDU) カバーなどから特徴を判断できます。

なお、PHEV (PLUG-IN HYBRID EV) ログマークはドアパネルの左右及び、テールゲートに装備されています。

(2) 外観の特徴



DE0101EJM0

(1) 左右フロントドアの「PLUG-IN HYBRID EV」ロゴマーク

(2) テールゲートの「PHEV」ロゴマーク

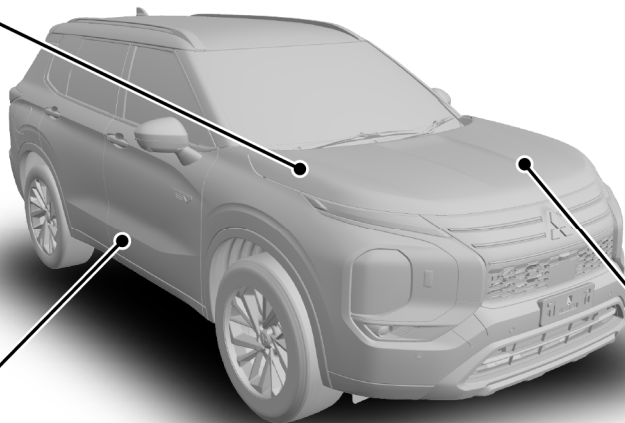
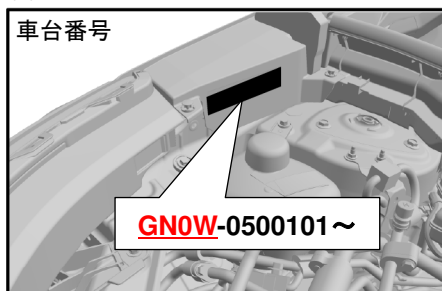
(3) 右リヤパネルの「充電リッド」

📖 アドバイス

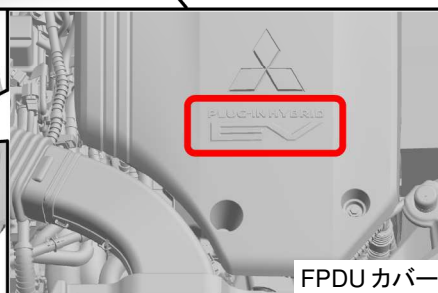
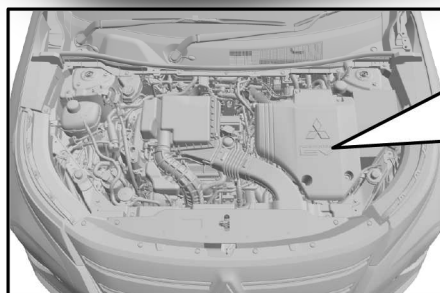
左リヤパネル部は「給油口」です。

(3) その他の特徴

(1)



(2)

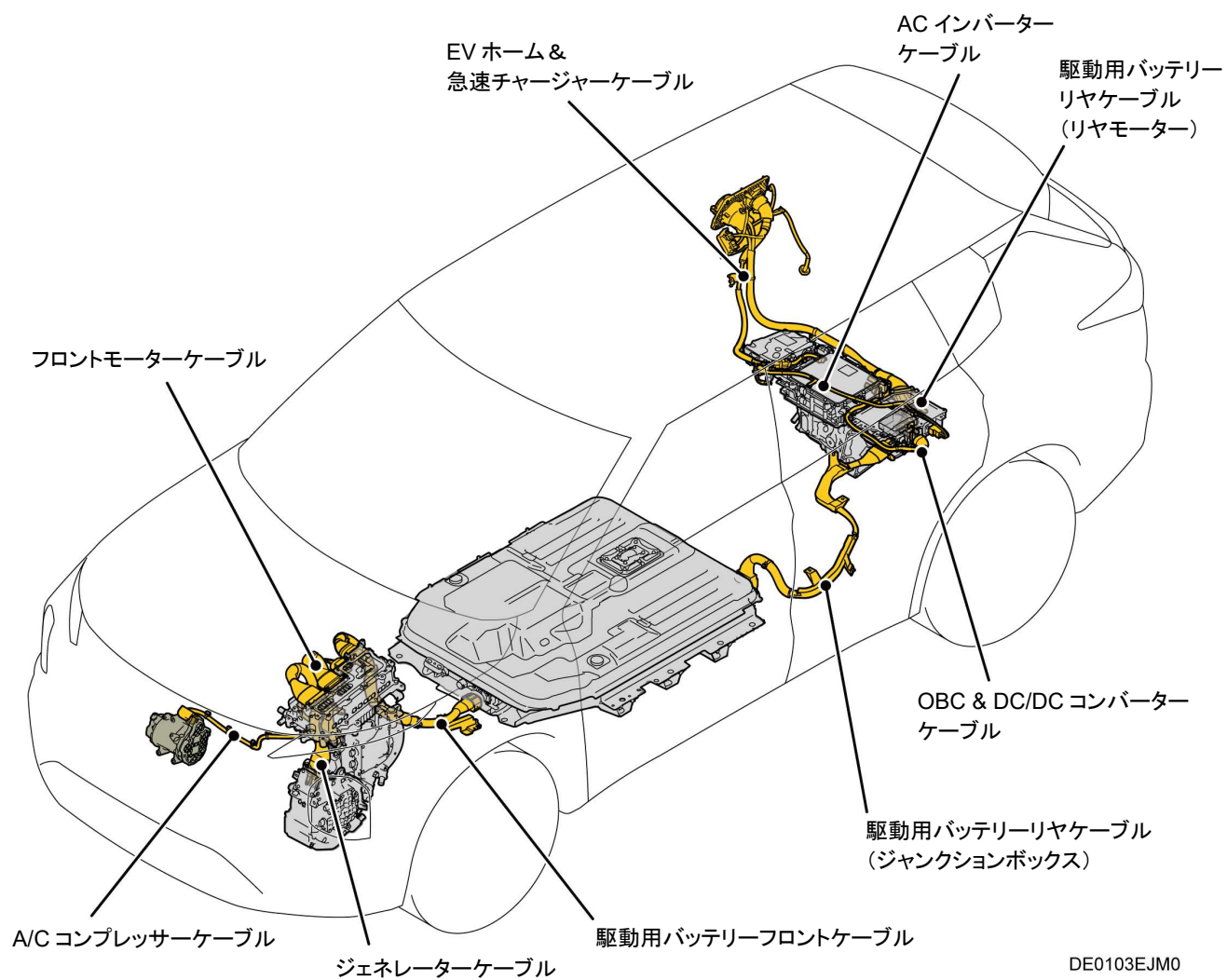


DE0102EJM0

- (1) エンジンルーム内に打刻の車台番号
- (2) 車両銘板に打刻の車両型式番号
- (3) エンジンルーム内の「FPDU カバー」に「PLUG-IN HYBRID EV」ロゴマーク

2. 高電圧機器配置図

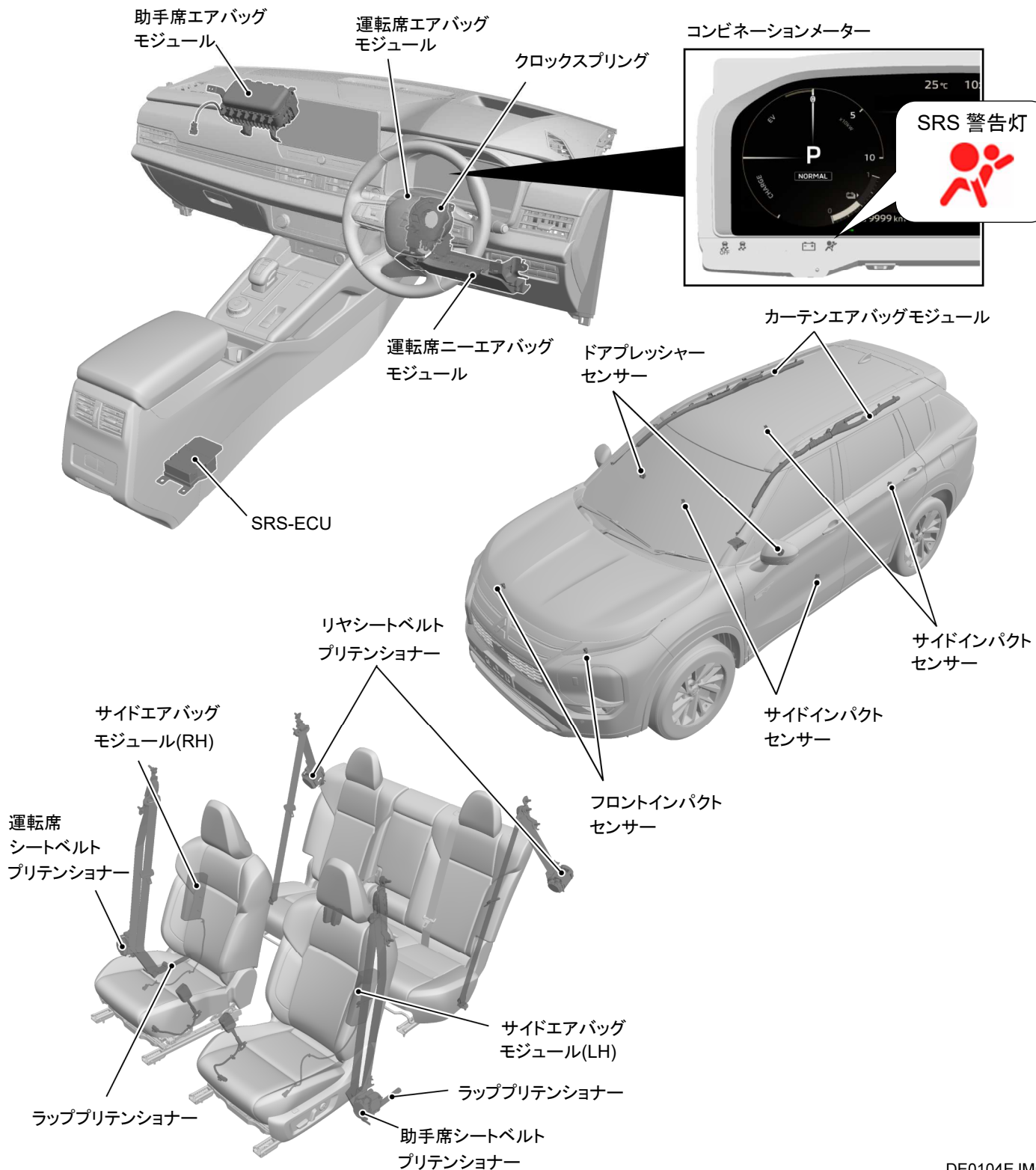
高電圧機器及び高電圧配線は下図のように取付けられています。



*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

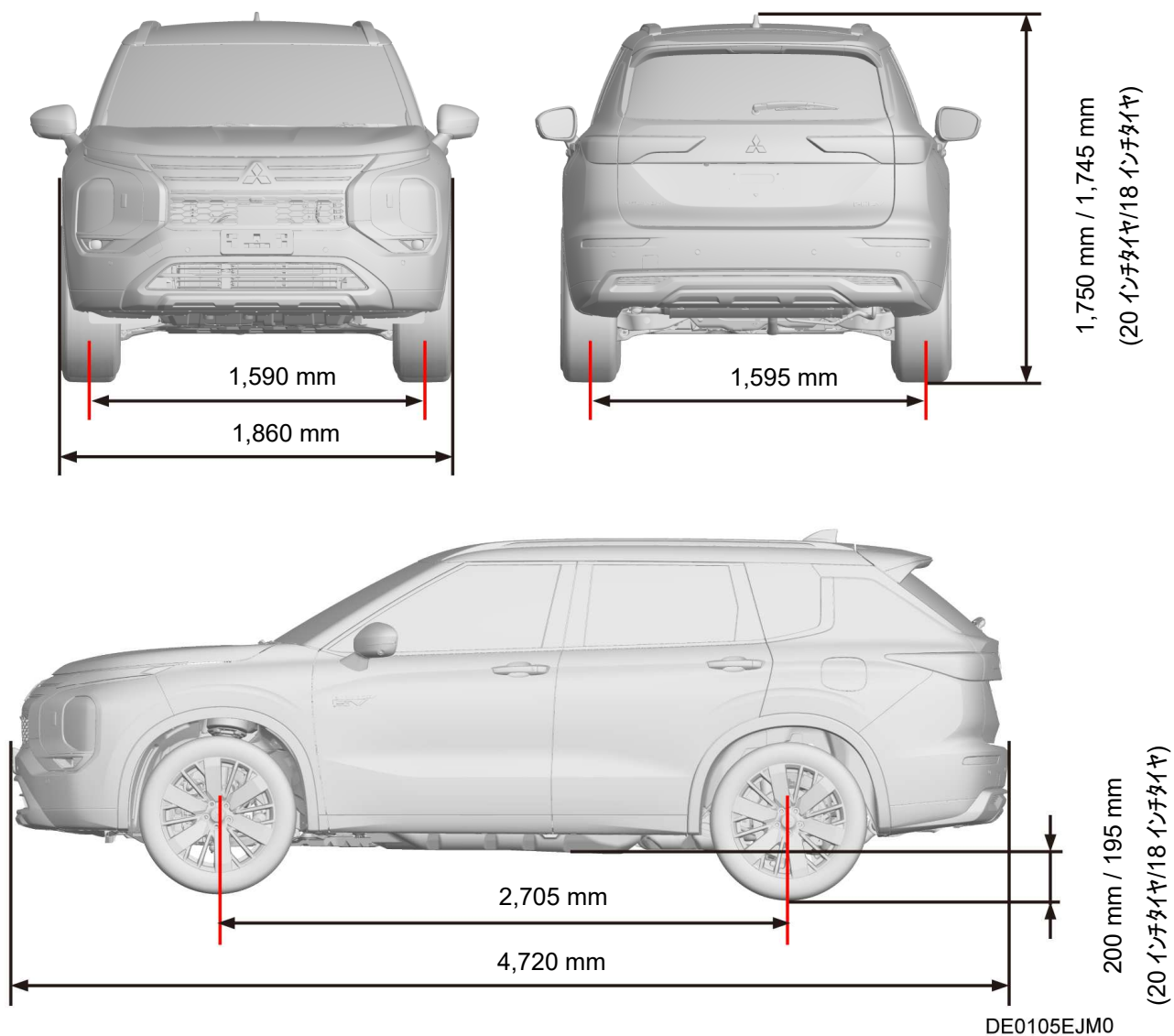
3. SRS エアバッグシステム

SRS エアバッグ及び関連機器類は下図のように取付けられています。



*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

4. 車両寸法



車両重量: 2,070 – 2,160kg*

* : グレードや仕様により、車両重量が異なります。

2.電源の切り換え・車両支持箇所

1. 車両の電源 ON / OFF

キーレスオペレーションキーの作動範囲は車室内です。



OFF

スピードメーター及び READY(走行可能)表示灯は消灯します。

本車両はオート ACC 機能を装備しているため、電源を OFF にしても一部の電装品(オーディオ、ドアミラーなど)は一定時間作動します。

ON

すべての電装品が作動するモードです。

ブレーキペダルを踏みながら、パワースイッチを押し、プラグインハイブリッド EV システムを起動させると、

READY(走行可能)表示灯が点灯します。

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、電源モードが「OFF」に切り換わります。

READY(走行可能)表示灯

プラグインハイブリッド EV システムを起動中、READY(走行可能)表示灯が点滅します。

READY(走行可能)表示灯が点滅から点灯になると、プラグインハイブリッド EV システムの起動は完了し、走行が可能となります。



DE0106EJMO

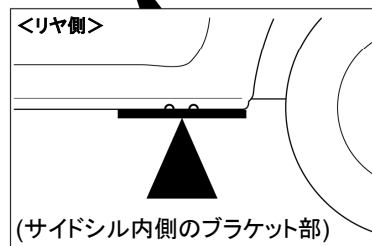
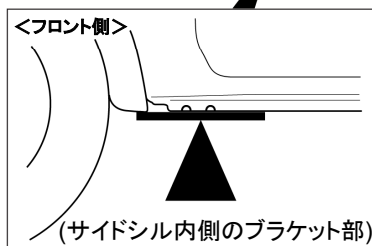
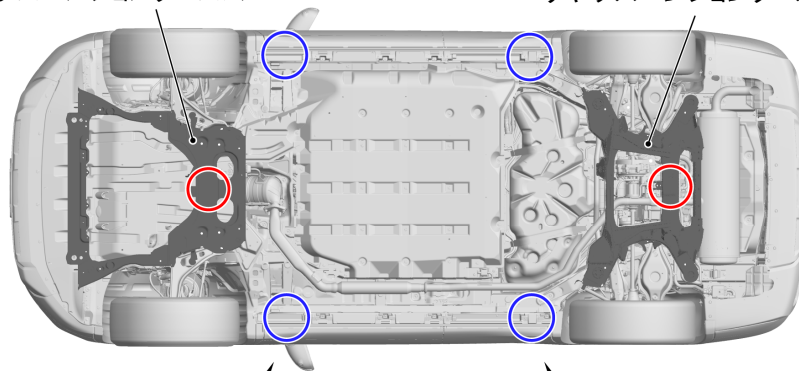
2. ジャッキ・リフトの支持位置

⚠ 注意

絶対に指定箇所以外で支持しないでください。他の箇所を支持すると、車体の変形などのおそれがあります。

フロントサスペンションクロスメンバー

リヤサスペンションクロスメンバー



DE0107EJMO

○:ガレージジャッキ支持位置 ○:ジャッキ、リジッドラック、リフト支持位置

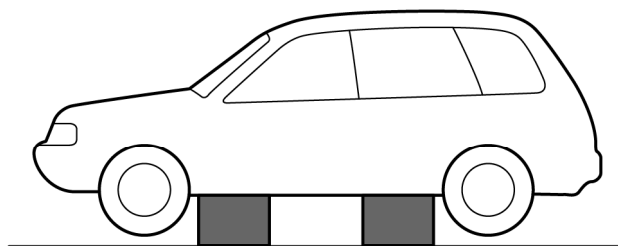
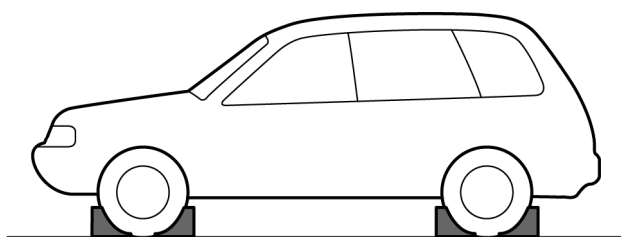
3. 車両支持箇所方法

⚠ 注意

- ・ 電動パーキングブレーキをかけるときはブレーキペダルをしっかり踏み、完全に停車してからスイッチを引き上げてください。
- ・ 支持物は排気系・燃料系及び高電圧部品や高電圧ハーネスなどを避けて設置してください。
- ・ 高電圧部品や高電圧ハーネスの内部が露出している場合は、その下に支持物及び救出用リフトエアバッグ装置を置かないでください。

📖 アドバイス

補機用バッテリー(12V)が電圧不足や上がっているとき、端子を外しているときは、電動パーキングブレーキをかけることも解除することもできなくなります。



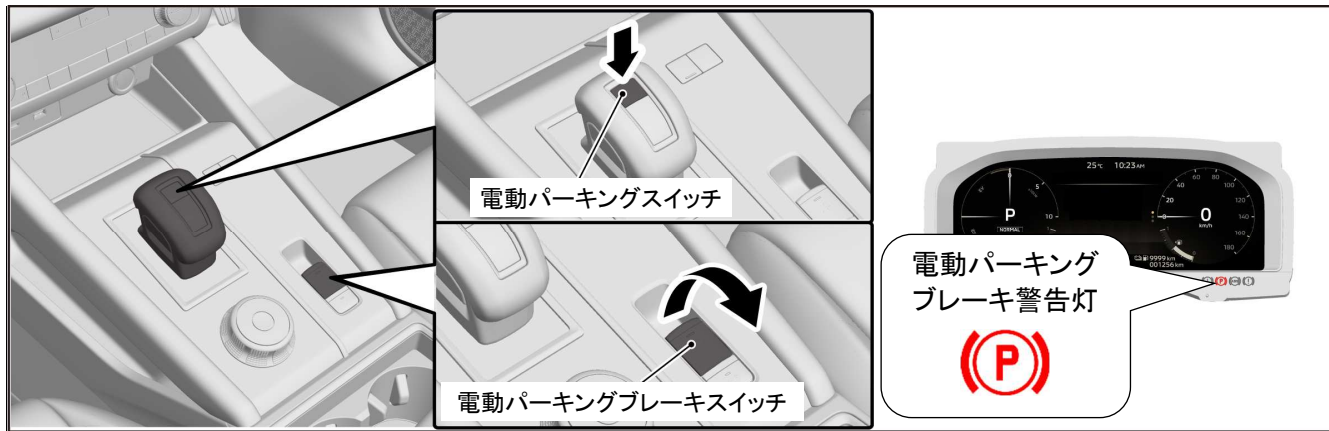
NE0040EEM0

・輪止めによる固定方法

車両を駐車し、電動パーキングスイッチを押してください。

ブレーキペダルを踏んだまま電動パーキングブレーキスイッチを引き上げ、メーター内の電動パーキングブレーキ警告灯(赤)とスイッチ内の表示灯が点灯していることを確認してください。

車輪が固定されたら、輪止めで車両を固定します。



DE0108EJM0

・木片やブロック等による安定方法

車両の下に木片やブロック等の支持物を置き、車両を安定させます。

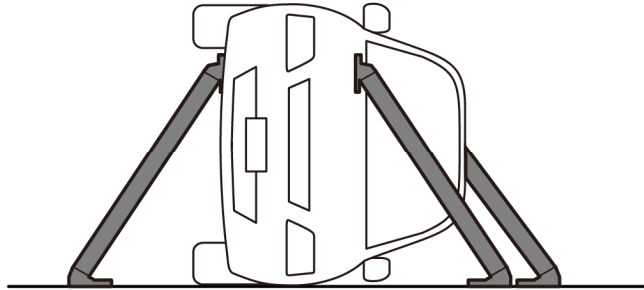
支持物は必ず指定された、ジャッキ支持位置に配置してください。

横転や転覆した車両の安定方法

⚠ 警告

- ・ 十分な強度を有する支持物を使用してください。
- ・ 支柱器具などの設置の際、排気系・燃料系及び高電圧部品や高電圧ハーネスなどを避けて設置してください。
- ・ 高電圧機器や高電圧配線の内部が露出している場合は、露出部を避けて装置を設置してください。

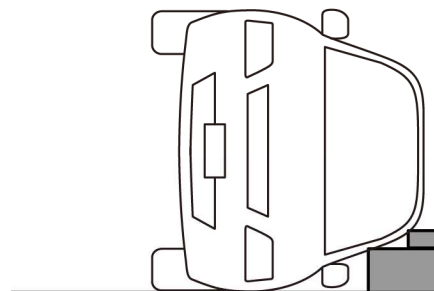
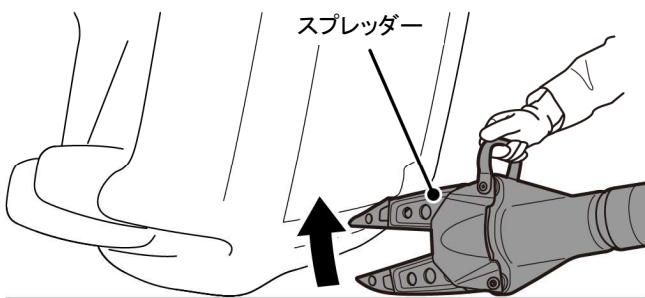
・横転車両の救助用支柱器具による安定方法



NE0073EJM0

車両屋根部や車両底部に支柱器具を設置してください。状況によって支柱を2本、3本、4本と設置し安定させます。

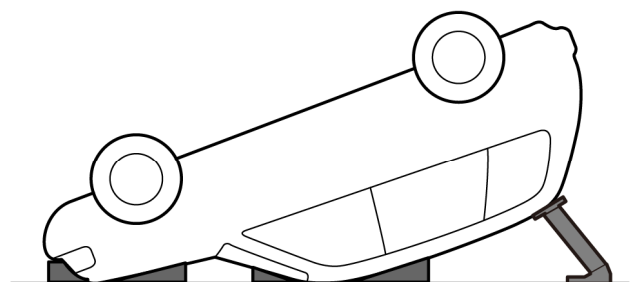
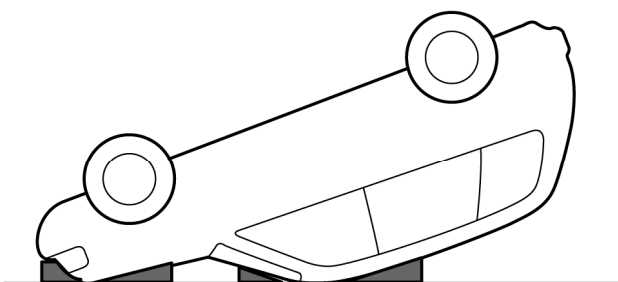
・横転車両の木片やブロック等による安定方法



NE0072EJM0

車両を持ち上げる必要がある場合は、スプレッダーやジャッキ等を使用し、すき間に木片やブロック等の支持物を置き安定させます。

・転覆車両の輪止めやブロック、救助用支柱器具等による安定方法



NE0076EJM0

エンジンフード及びピラー一部のすき間に輪止め等のブロックを設置し、車両を安定させます。
安定性をより高める場合は、車両後部(強固な箇所)に支柱を置きます。

3.安全に作業を行うために

アドバイス

補機用バッテリー(12V)の端子を外すと、電気部品に関連する操作ができなくなる場合があります。

以下の作業を行う場合は補機用バッテリー(12V)の端子を外す前に必要な作業を行ってください。

OUTLANDER PHEV は最大作動電圧 408V のリチウムイオンバッテリーを搭載し、モーター(パワーユニット)の駆動と一部装備品(エアコン等)の作動に使用しています。また、車両の仕様上、最大 650V の電圧が印加される可能性があります。よって、安全に作業を進めるために、作業の前には高電圧の「隔離」と「遮断」が確実に行われているか確認することが必要です。

注意

エンジン音がしなくても、ハイブリッドシステムが OFF とは限りません。高電圧の「隔離」と「遮断」を確実に行ってください。

(1)高電圧の隔離

- 1)高電圧回路は、車体と絶縁しています。
- 2)高電圧機器や配線にはケース・カバーを設定しています。
また、高電圧配線の被覆はオレンジ色で統一しています。
- 3)高電圧機器のケースと機器内高電圧通電部は絶縁しています。

(2)高電圧の遮断

高電圧回路は、サービスプラグを外すことで遮断することができます。

(3)乗員救助及び事故車取扱い時の注意

注意

車両の取扱いを誤ると、感電など重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分注意してください。

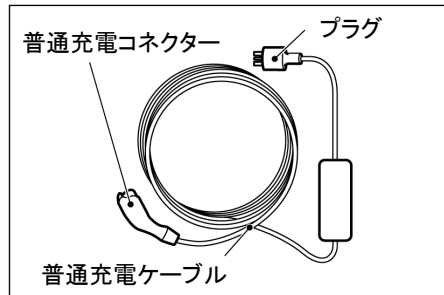
受傷や感電の危険を減らすためにこのマニュアルに記載された手順に沿って十分注意のうえ、車両の処置を行ってください。

- (1) この車両では、最大 650V の電圧が印加される可能性があります。
- (2) 駆動用バッテリーは、万が一破損しても大量に電解液が外部に流出しない構造となっています。
- (3) 駆動用バッテリーの電解液には可燃性の「リチウム塩を含む炭酸エステル溶液」を使用しています。
この電解液は、空気中の水分と反応すると人体に有害な酸性の蒸気を発生します。
よって、電解液を取り扱う際には有機ガス用マスク・耐溶剤性の手袋・保護メガネを使用し、十分注意してください。
- (4) パワースイッチの電源モードによらず、高電圧回路は常時通電しています。

(4) 充電コネクタが車両に勘合している場合

- 充電コネクタを車両から外します。

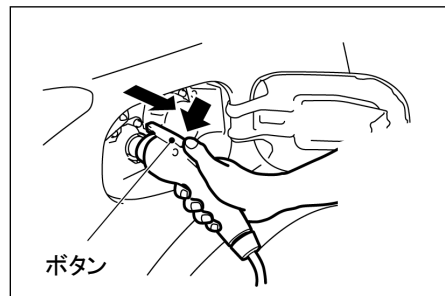
充電ケーブルとコネクタが損傷していないことを確認してください。損傷がない場合は、充電コネクタを車両から取外してください。損傷がある場合、または充電コネクタを取外せない場合は、充電コネクタを無理に取外さず、可能であれば充電ケーブルの家屋側コンセントプラグを抜くか、充電ステーションの電源をオフにしてください。



DE0178EJM0

<普通充電コネクタ>

取外す時は、ボタンを押しながらコネクタを引抜いて下さい。



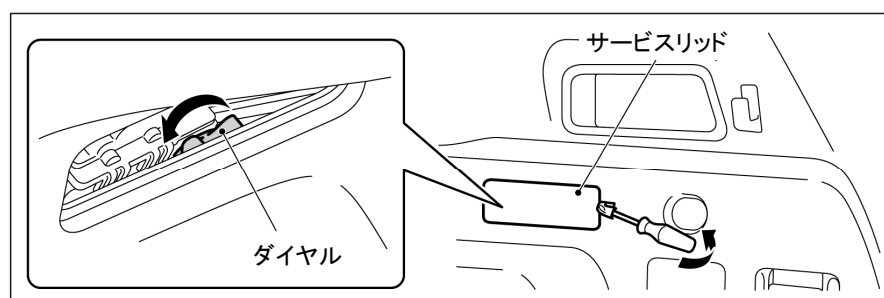
DE0175EJM0

充電コネクタがロックされていて引き抜けない場合は、充電コネクタロック解除スイッチを押す、またはドアロックスイッチかキーレスオペレーションキーでドアロックを解錠するとピッピッピッと音が鳴り、充電コネクタロックが解除されます。



DE0179EJM0

充電コネクタロックが解除できなくなったときは、車内からラゲッジサイドローワーフィニッシャーのサービスリッドを取外し、サービスリッド切り欠きの下側から見える白色のダイヤルを反時計回りに約 12 回転することで普通充電コネクタが解錠されます。



DE0176EJM0

<急速充電コネクタ>

取り外し方については、各急速充電器のマニュアルに従ってください。

充電中は急速充電コネクタがロックされ、取外すことができません。充電中に急速充電コネクタを取外す必要がある場合は、急速充電器に表示される手順に従い充電を停止し、急速充電コネクタを取外してください。

(5) 車両が損傷している場合

- ・車両が損傷状態を確認してください。

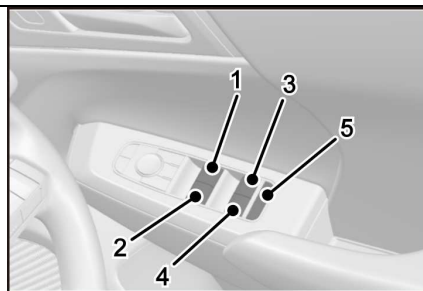
以下のいずれかの状態が見られる場合は、絶縁保護具を着用し、駆動用バッテリー、高電圧機器、オレンジ色の高電圧配線に触れないように注意して作業してください

- 車両が著しく損傷している場合
- 駆動用バッテリーが変形・損傷している場合、または内部部品が露出している場合
- 駆動用バッテリー損傷による影響が判断できない場合

アドバイス

補機用バッテリー(12V)の端子を外すと、電気部品に関連する操作ができなくなる場合があります。
以下の作業を行う場合は補機用バッテリー(12V)の端子を外す前に必要な作業を行ってください。

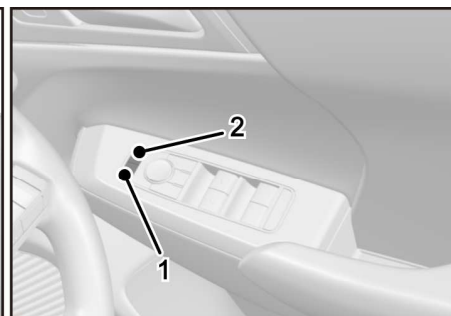
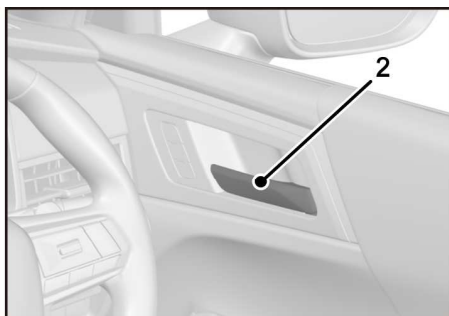
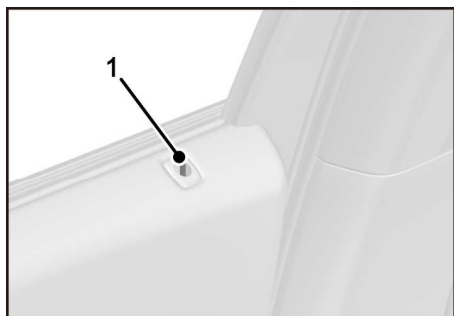
1. パワーウィンドウ / ドアロック



DE0009EJM0

パワーウィンドウ

- 1: 運転席側
- 2: 助手席側
- 3: 後席右側
- 4: 後席左側
- 5: ロックスイッチ



DE0010EJM0

ドアロック

- 1 - 施錠
- 2 - 解錠

アドバイス

運転席のアームレストのスイッチを操作すると、すべてのドアの施錠/解錠が連動します。
運転席以外のハンドルでの解錠は、ハンドルを2度引いてください。
運転席のドアを開けた場合、すべてのドアが解錠します。

2. 電動パーキングブレーキ

・かけるとき

- 1) 車両を完全に止めます。
- 2) ブレーキペダルを踏んだまま電動パーキングブレーキスイッチを引きます。



メーター内の電動パーキングブレーキ警告灯(赤)とスイッチ内の表示灯が点灯していることを確認してください。

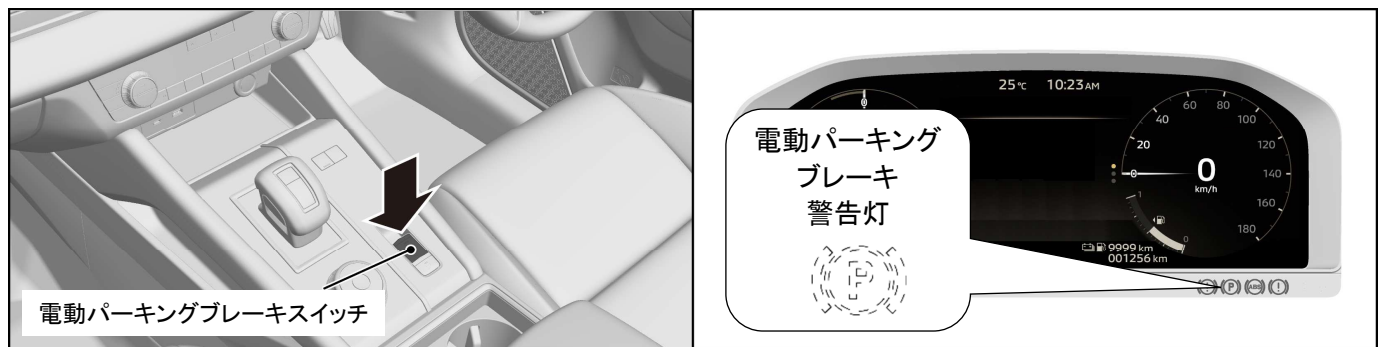
⚠ 注意

- ・ 電動パーキングブレーキをかけるときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、完全に停車してからスイッチを引いてください。

・解除するときは

手動解除

- 1) パワースイッチの電源モードを ON にします。
- 2) ブレーキペダルを踏んだまま電動パーキングブレーキスイッチを押します。
- 3) 電動パーキングブレーキを解除すると、メーター内の電動パーキングブレーキ警告灯とスイッチ内の表示灯が消灯します。



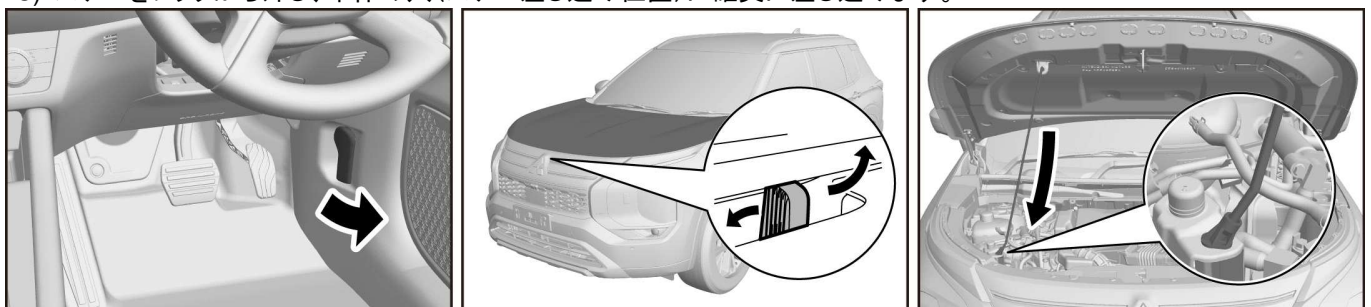
自動解除

次の条件がそろったときにアクセルペダルをゆっくり踏み込むと、電動パーキングブレーキが自動で解除されます。

- プラグインハイブリッドEV システムが起動している
- セレクトポジションが D 又は R の位置にある
- 運転席のドアが閉じている

3. エンジンフード(ボンネット)の開け方

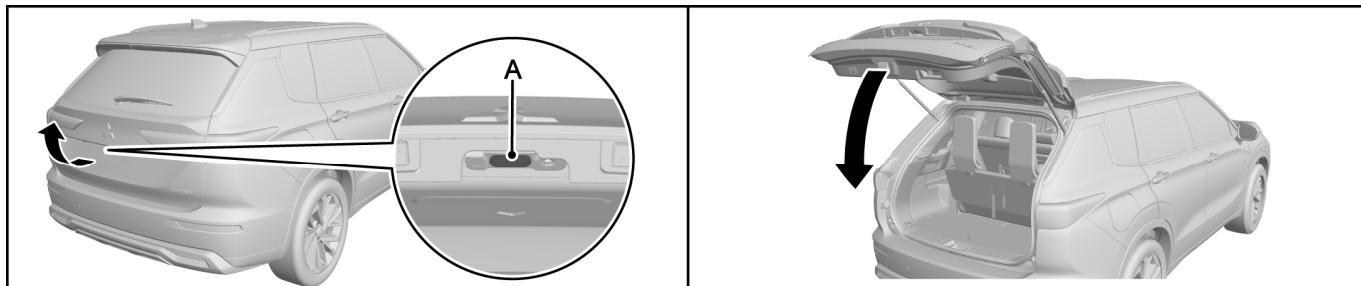
- 1) 運転席右下にあるレバーを引くとエンジンフードが少し浮き上がります。
- 2) エンジンフードのすき間に手を入れ、前端中央部のレバーを横に押しながらエンジンフードを持ち上げます。
- 3) ステーをフックから外し、車体の穴(ステー差し込み位置)に確実に差し込みます。



4. テールゲートの操作

＜エレクトリックテールゲート非装着車＞

ドアロック解錠後、テールゲートオープナースイッチ(A)を押してテールゲートを持ち上げます。



DE0114EJM0

＜エレクトリックテールゲート装着車＞

・エレクトリックテールゲートスイッチを長押しするとテールゲートが自動全開閉

インストルメントパネルにあるエレクトリックテールゲートスイッチ(A)を1秒以上押します。

テールゲートの開閉中にエレクトリックテールゲートスイッチ(A)を押すと、テールゲートが停止します。

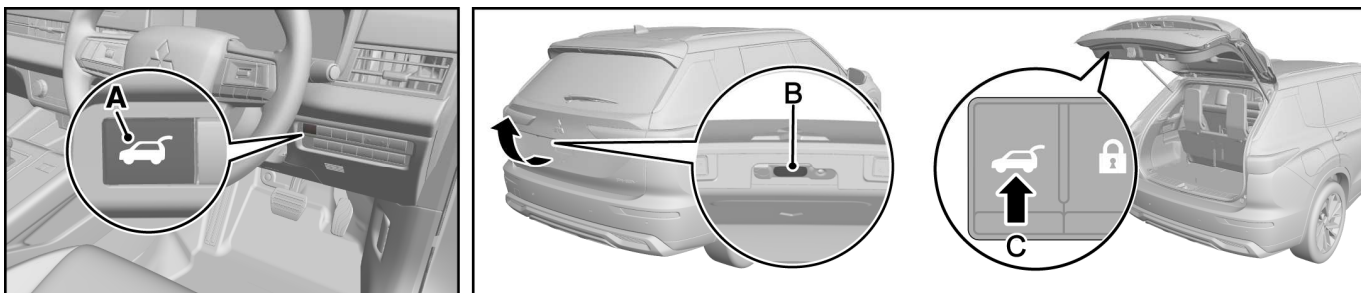
再度、エレクトリックテールゲートスイッチ(A)を押すと開閉します。

・テールゲートオープナースイッチを使用してエレクトリックテールゲートを開く

エレクトリックテールゲートは、テールゲートオープナースイッチ(B)を押すことで、自動で開くことができます。

エレクトリックテールゲートは、テールゲート内側のエレクトリックテールゲートクローズスイッチ(C)を押すことで閉じることができます。テールゲートの開閉中にテールゲートオープナースイッチ(B)又はエレクトリックテールゲートクローズスイッチ(C)を押すと、テールゲートが停止します。

再度、テールゲートオープナースイッチ(B)又はエレクトリックテールゲートクローズスイッチ(C)を押すと、開閉します。



DE0115EJM0

・キーレスオペレーションキーを使用してエレクトリックテールゲートを操作

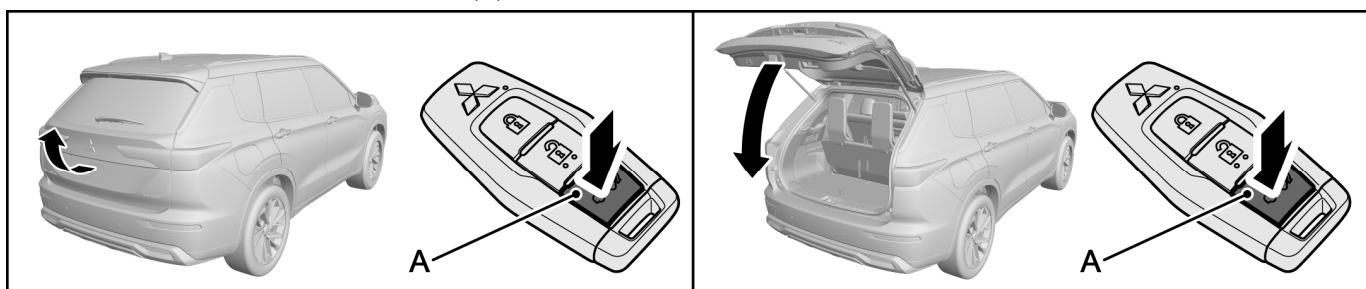
キーレスオペレーションキーのエレクトリックテールゲートボタン(A)を1秒以上押します。

・閉じているとき: テールゲートは開きます。

・開いているとき: テールゲートは閉まります。

テールゲートの開閉中にエレクトリックテールゲートボタン(A)を押すと、テールゲートが停止します。

再度、エレクトリックテールゲートボタン(A)を押すと、開閉します。



DE0147EJM0

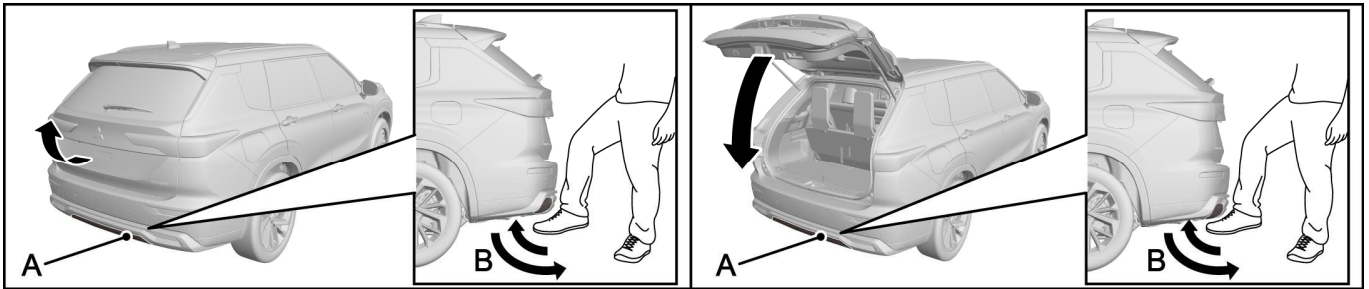
・ハンズフリーアクセスを使用したエレクトリックテールゲートの操作

📖 アドバイス

キーレスオペレーションキーを携帯しないと、キックモーションセンサーは反応しません。

リヤバンパーの背面にあるキックモーションセンサー(A)により、ハンズフリーでテールゲートを開閉できます。

蹴る動作と同じように、足を操作範囲(B)の下に移動したり、操作範囲(B)から離したりすると、テールゲートが自動的に開閉します。



DE0148EJM0

エレクトリックテールゲートは、キックモーションセンサー(A)を使用して自動的に開閉します。

- 1) キーレスオペレーションキーを携帯します。
- 2) キックモーションセンサーの動作範囲内で、キック動作と同様に足をリヤバンパーの下に移動してリヤバンパーから離します。
- 3) テールゲートは自動的に開閉します。

- ・閉じているとき: テールゲートは開きます。
- ・開いているとき: テールゲートは閉まります。

テールゲートの開閉中にキックモーションを行うと、テールゲートが停止します。

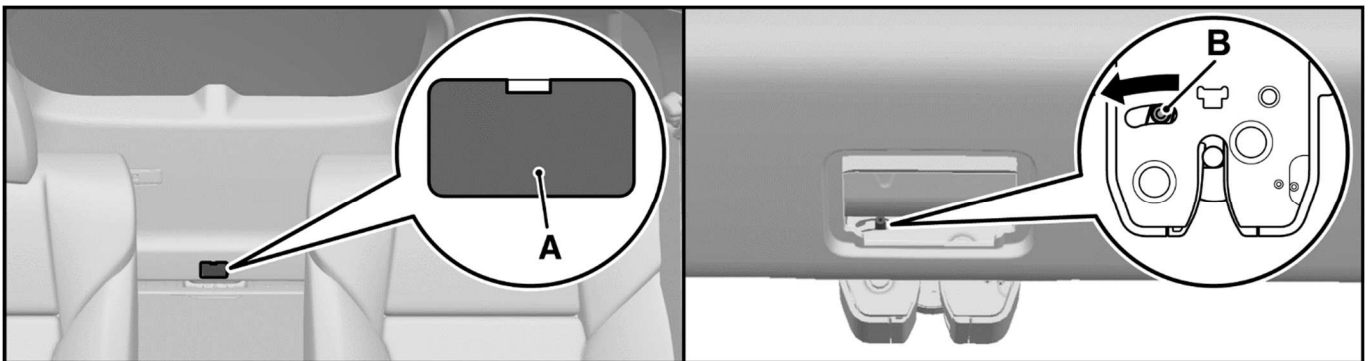
再度、キックモーションを行うと、開閉できます。

・車内からテールゲートを開ける方法

車内からもテールゲートを開けることができます。

補機用バッテリー(12V)上がりなどで車外から開けられなくなったときにご使用ください。

- 1) 車内からバックドアインナーフィニッシャーのカバー(A)を外します。
- 2) 工具を使用してインサイドリリースレバー(B)を矢印の方向に動かし、テールゲートを押しながら開けます。



DE0049EJM0

5. 補機用バッテリー(12V)マイナス端子切り離し方法

<スパナを使用する>

以下の手順で 10 mm のスパナを使用して補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を外し、補機用バッテリー(12V)本体のマイナス端子側をビニールテープなどで絶縁してください。

補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を外すことで、SRS エアバッグシステムの回路を遮断します。

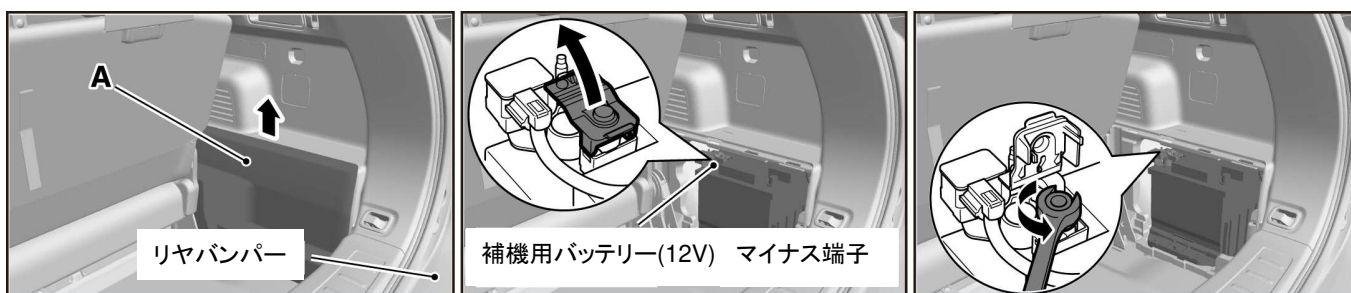
- 1) 充電中であれば、充電コネクタを抜きます。
- 2) パワースイッチの電源モードを OFF にします。以降は READY(走行可能)状態にしたり、充電は行わないでください。
- 3) エンジンフード及びテールゲートの両方を開けます。以降は、開けたまま作業してください。
- 4) パワースイッチを 1 回押して電源モードを ON にし、再度パワースイッチを 5 秒以上長押しします。

⚠ 注意

- ・ 運転席ドアを閉めた後、5 分間は補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を切り離さないこと。
- ・ 待機中はドアロックの操作やドアの開閉などの車両操作を行わないこと。



- 5) 運転席ドアを閉めて、5 分以上待機します。
- 6) コンビネーションメーター内及び電動パーキングスイッチの表示灯の消灯を確認します。
- 7) 補機用バッテリー(12V)サービスリッド(A)を取外します。
- 8) 補機用バッテリー(12V)のマイナス端子用保護キャップを開き、マイナス端子を切り離します。



DE0116EJM0

<ソケットレンチを使用する>

以下の手順で 10 mm のソケットレンチを使用して補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を外し、補機用バッテリー(12V)本体のマイナス端子側をビニールテープなどで絶縁してください。

補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を外すことで、SRS エアバッグシステムの回路を遮断します。

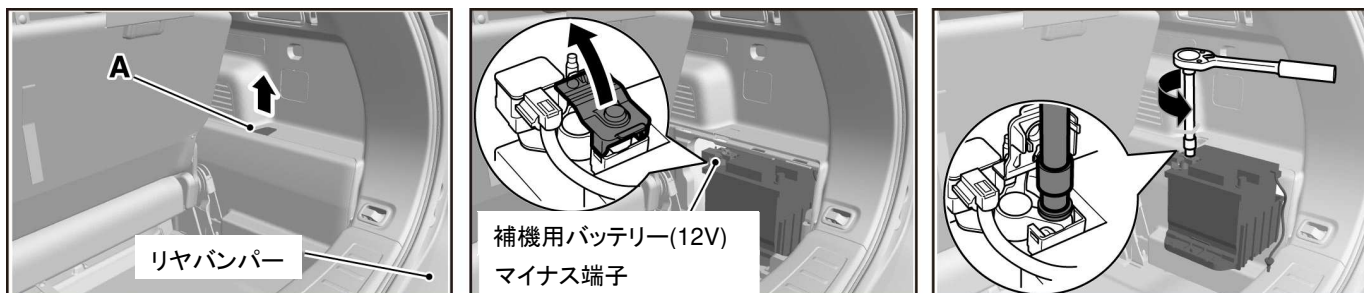
- 1) 充電中であれば、充電コネクタを抜きます。
- 2) パワースイッチの電源モードを OFF にします。以降は READY(走行可能)状態にしたり、充電は行わないでください。
- 3) エンジンフード及びテールゲートの両方を開けます。以降は、開けたまま作業してください。
- 4) パワースイッチを 1 回押して電源モードを ON にし、再度パワースイッチを 5 秒以上長押しします。

⚠ 注意

- ・ 運転席ドアを閉めた後、5 分間は補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を切り離さないこと。
- ・ 待機中はドアロックの操作やドアの開閉などの車両操作を行わないこと。



- 5) 運転席ドアを閉めて、5 分以上待機します。
- 6) コンビネーションメーター内及び電動パーキングスイッチの表示灯の消灯を確認します。
- 7) 補機用バッテリー(12V)マイナス端子リッド(A)を取外します。
- 8) 補機用バッテリー(12V)のマイナス端子用保護キャップを開き、マイナス端子を切り離します。

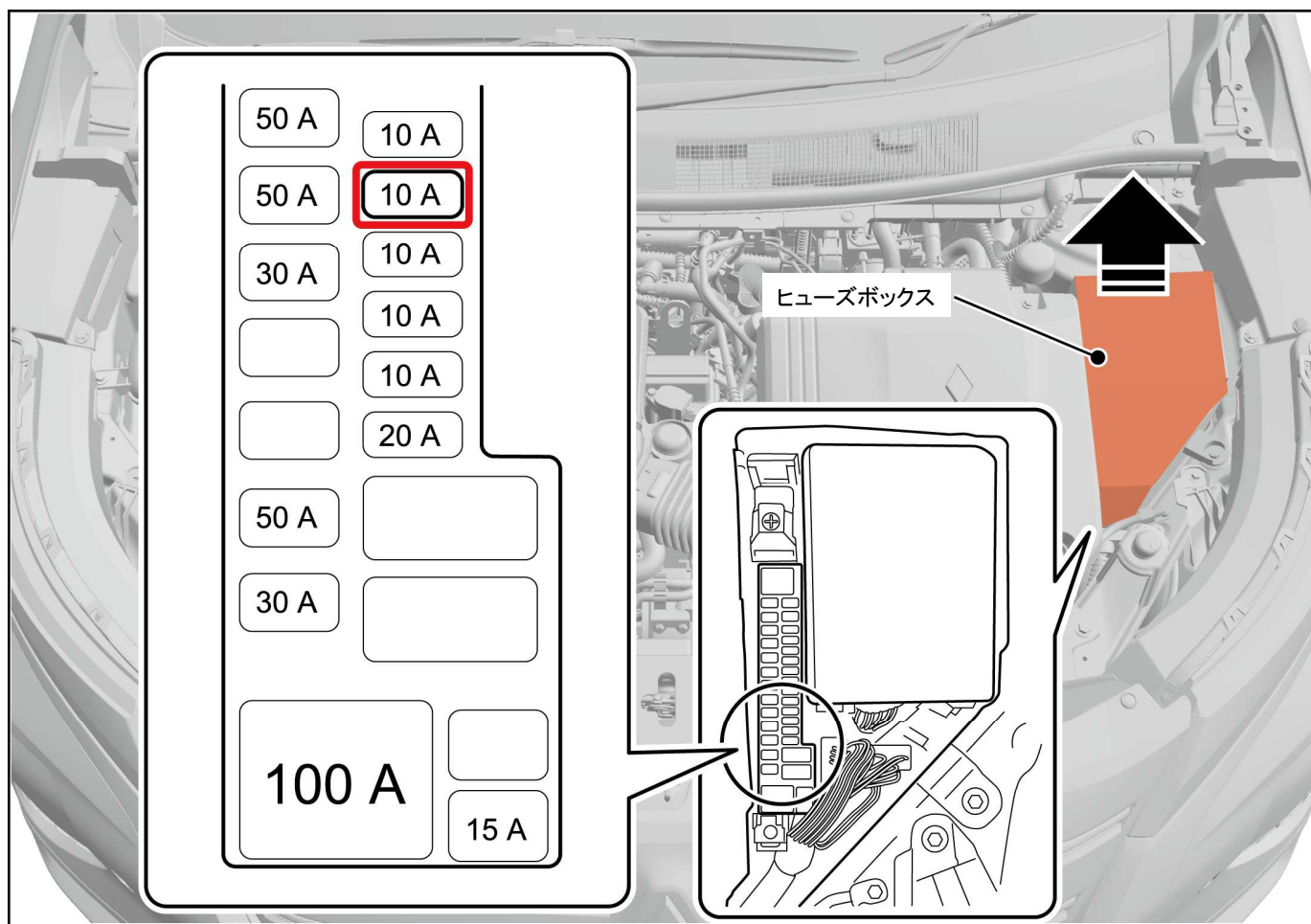


DE0117EJM0

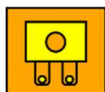
6. 「パワーコントロールユニット」用ヒューズの取外し方法

エンジンルーム内のヒューズボックスより「パワーコントロールユニット」用のヒューズ(10A、下図左赤枠部)をヒューズ外しなどを使用してヒューズを取外します。

なお、ヒューズの位置が分からない場合は、すべてのヒューズを取外してください。



DE0127EJM0



*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

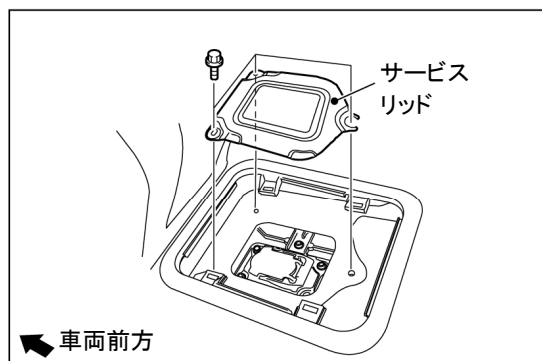
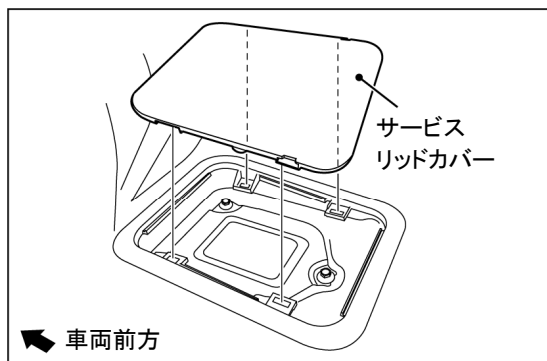
7. サービスプラグの取外し方法

注意

補機用バッテリー (12V) のマイナス端子を切り離してから5分間はサービスプラグを抜かないこと。



- 1) 絶縁保護具を着用し、以下の手順でサービスプラグを取外してください。
サービスプラグを抜き取ることで、駆動用バッテリー内の高電圧回路を遮断します。
- 2) 2席中央足元のサービスリッドカバーを持ち上げて外してください。(クリップ×4個)
10mmのソケットレンチなどを使用してサービスリッドのボルトを外します。(ボルト×3個)



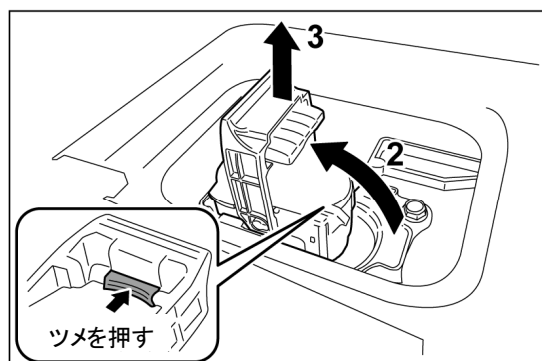
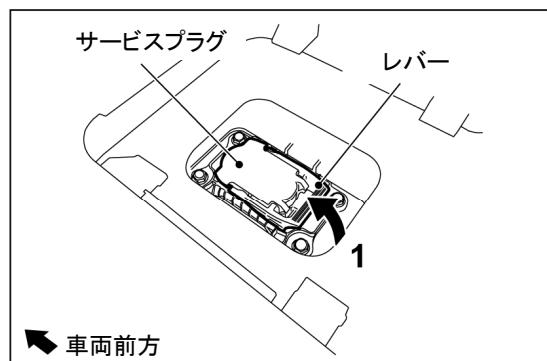
DE0018EJM0

警告

サービスプラグを抜き取る際は、必ず絶縁保護具を着用してください。



- 3) 絶縁保護具の着用を確認し、サービスプラグを取外してください。
 1. サービスプラグのレバーを止まるまで起こしてください。
 2. サービスプラグのレバーのツメを図示の方向に押しながら、サービスプラグのレバーをさらに起こしてください。
 3. サービスプラグを上方に引き抜いて取外します。



DE0019EJM0



*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

4.乗員救助

救助を行う際、感電などの重大な傷害を招く可能性があります。

高電圧ケーブルや高電圧部品に触れないよう注意してください。必要に応じて高電圧回路を遮断してください。

⚠ 警告

車体又は車体と接触している物に触れる場合や接触の可能性がある場合は、必ず絶縁手袋や絶縁ゴム底安全靴等の絶縁保護具(耐電圧 650V 以上)を着用してください。



⚠ 注意

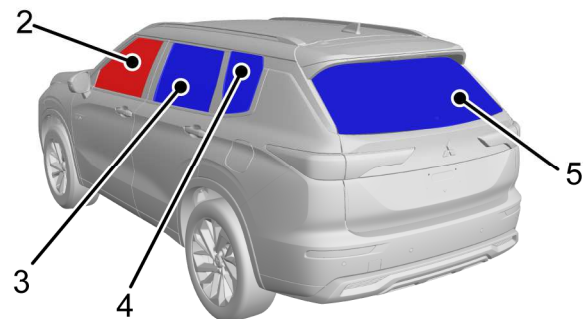
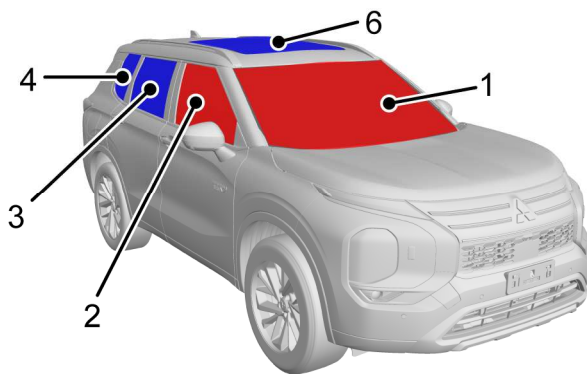
補機用バッテリー(12V)が電圧不足や上がっているとき、端子を外しているときは、テールゲートやパワーシート、電動パーキングブレーキなどの電気部品が操作できません。

📖 アドバイス

補機用バッテリー(12V)の端子を外すと、電気部品に関連する操作ができなくなる場合があります。

補機用バッテリー(12V)の端子を外す前に必要な作業を行ってください。

1. ウインドウ



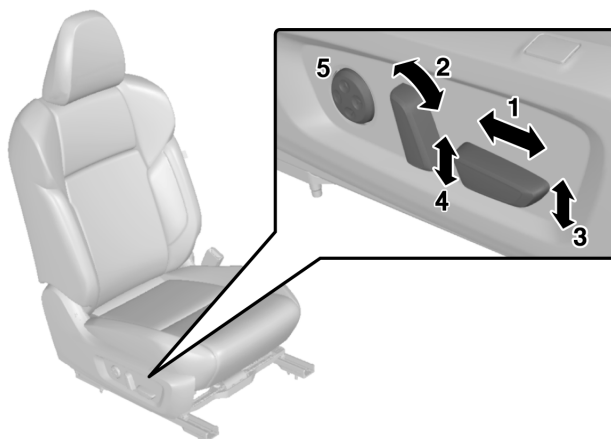
DE0120EJM0

1-2: 合わせガラス 3-6: 強化ガラス

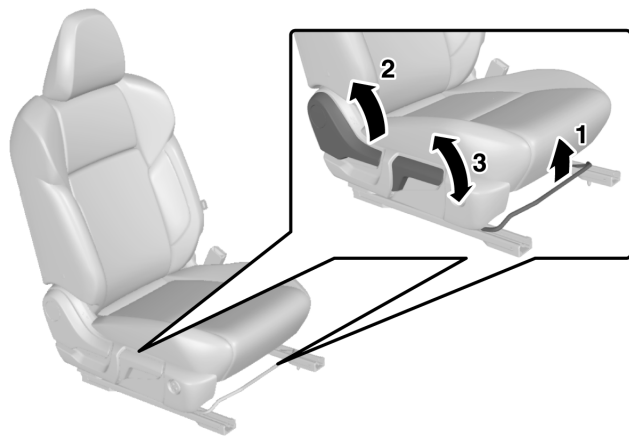
2. シート調整、ハンドル調整

・シート

<電動式>



<手動式>



DE0021EJM0

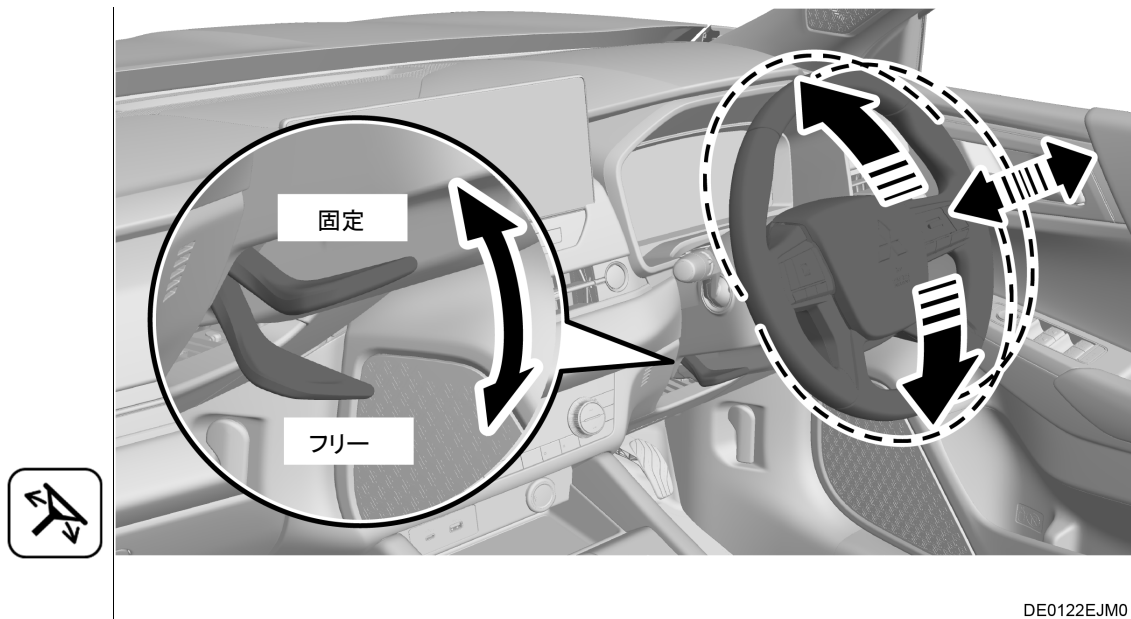
- 1: 前後調整
- 2: 背もたれの角度調整
- 3: シートクッションの角度調整
- 4: 高さ調整
- 5: 腰部の張り出し量調整

- 1: 前後調整
- 2: 背もたれの角度調整
- 3: 高さ調整(運転席のみ)



*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

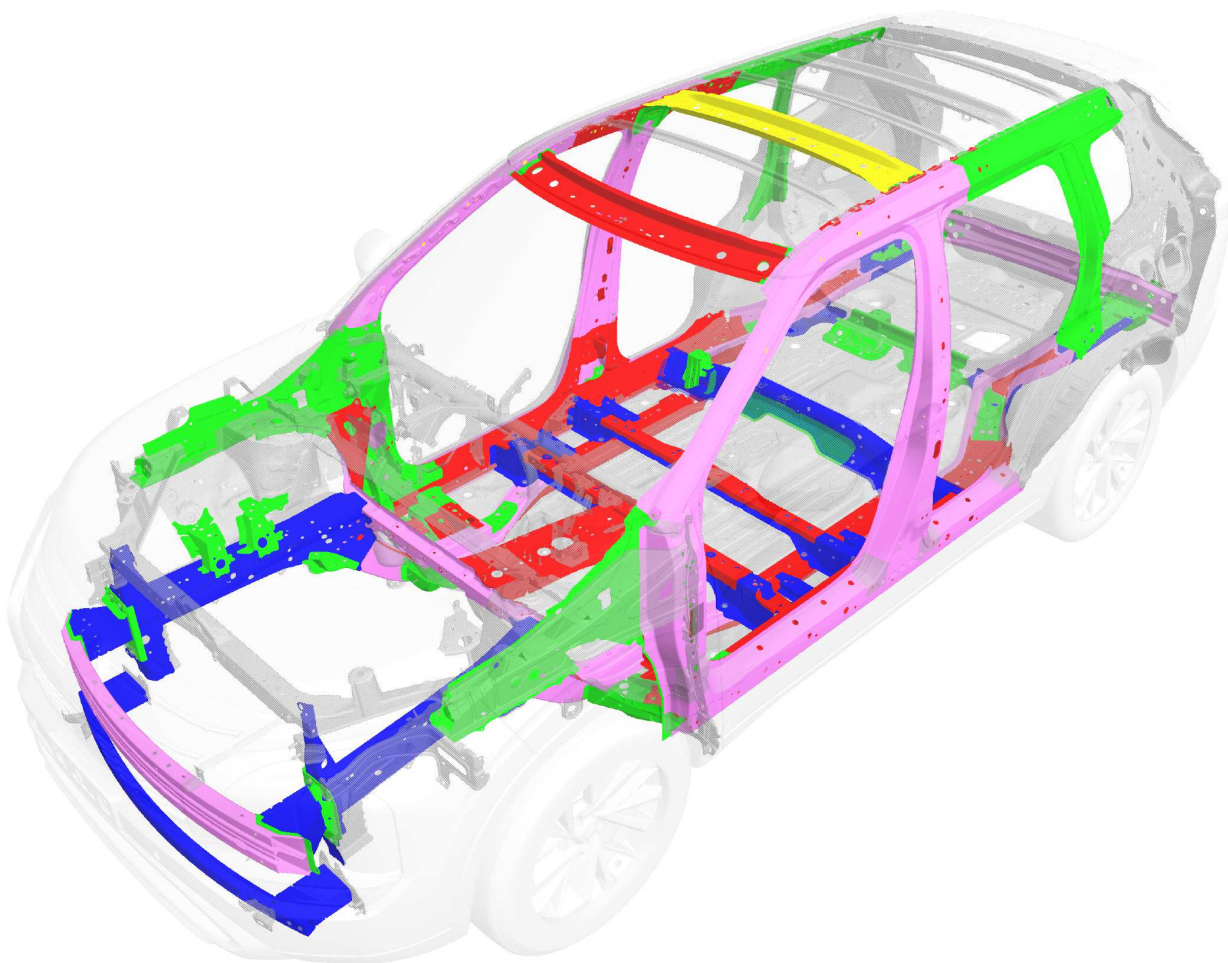
ハンドル









DE0122EJM0

*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

3. 高張力鋼板及び超高張力鋼板使用箇所



DE0123EJM0

 : ~ 440 MPa	 : 590 MPa	 : 780 MPa	 : 980 MPa
 : 1180 MPa	 : 1470 MPa		

4. 車体切断



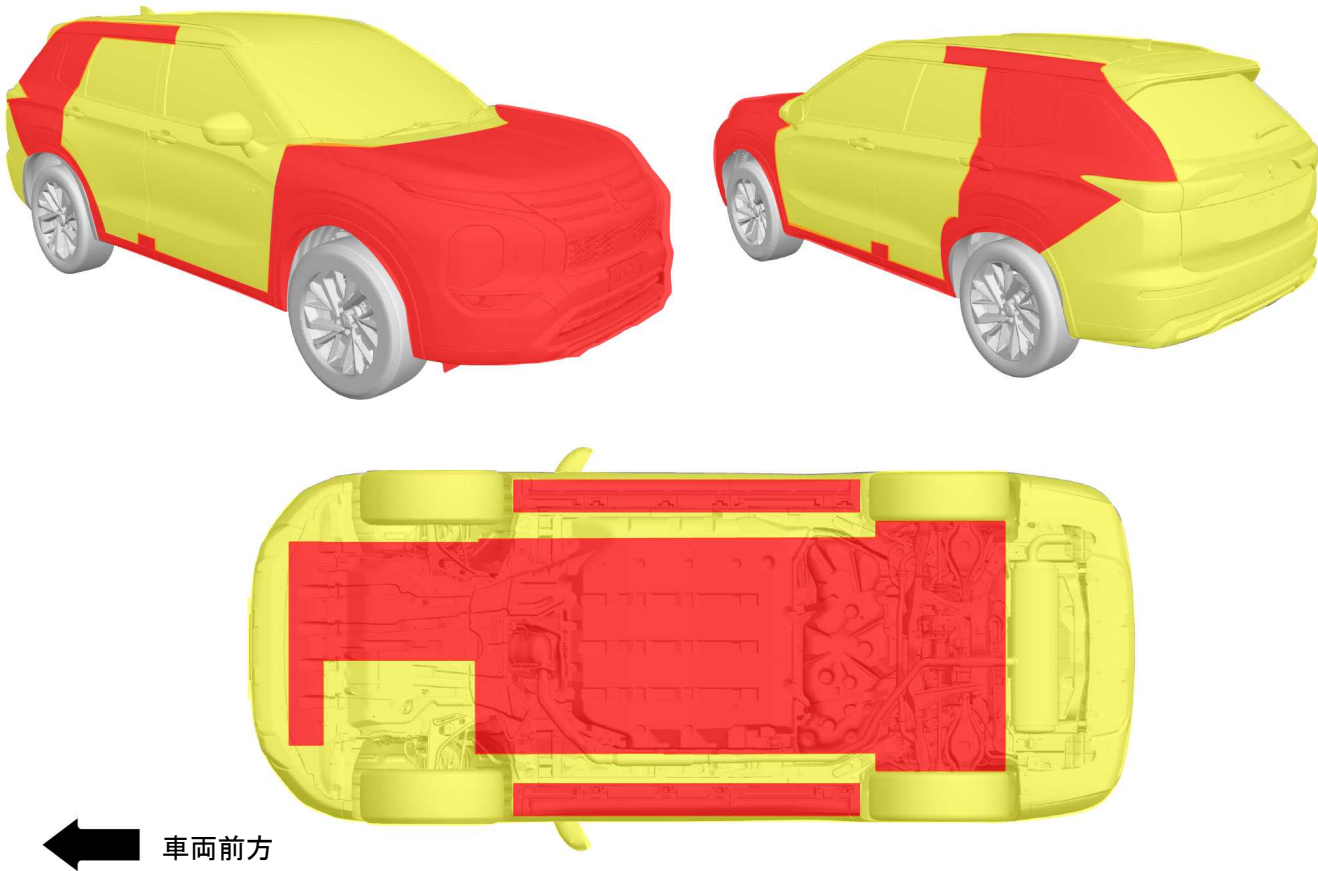
車体を切断し救助作業を行ってください。

- 事前確認

「1-2.高電圧機器配置図」及びこのページを確認した後に車体切断作業を開始してください。

⚠ 警告

- ・ 乗員・救助者に重大な傷害をおよぼすおそれがありますので、車体切断の際は油圧カッターなどの火花の飛ばない適切な切断機器を使用してください。
- ・ なお、部品を外す際には以下の項目で示した部位で露出したオレンジ被覆の高電圧配線には触れないよう十分に注意して作業を行ってください。
- ・ 駆動用バッテリーは絶対に切断しないでください。

	<p>高電圧による感電のおそれがある箇所 高電圧による感電のおそれがあるため、高電圧部品・配線のある部位は切断不可。</p> <p>エアバッグが展開するおそれがある箇所 カーテンエアバッグ展開用インフレーター装置、配線ショート、衝撃によりエアバッグが展開するおそれがあるため、切断不可。 ただし、エアバッグがすでに展開している、もしくはエンジンスイッチ OFF 後か補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を切り離した後、1分以上経過していれば切断可能。</p>
	<p>切断可能部</p>
 <p>車両前方</p> <p>下面視</p> <p>DE0124EJM0</p>	

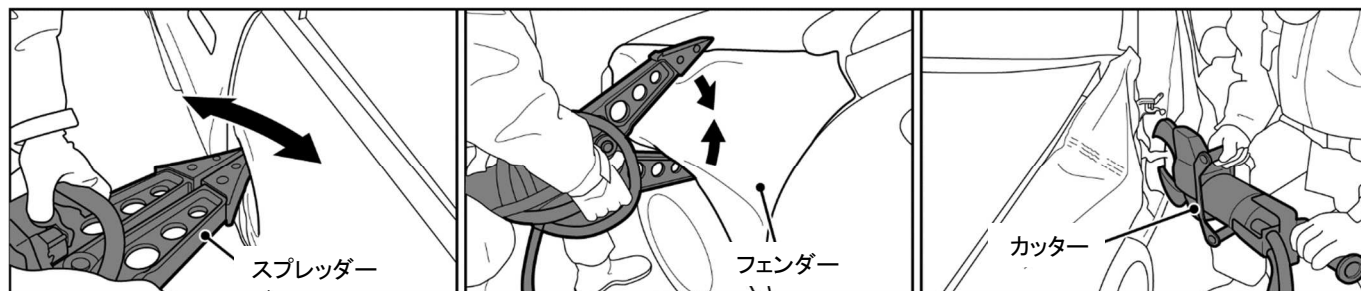
5. スプレッターやカッターによるドアの開放

⚠ 警告

- ・ 乗員・救助者に重大な傷害をおよぼすおそれがありますので、車体切断の際は油圧カッターなどの火花の飛ばない適切な切断機器を使用してください。
- ・ なお、部品を外す際にはオレンジ被覆の高電圧配線には触れないよう十分に注意して作業を行ってください。
- ・ 駆動用バッテリーは絶対に切断しないでください。

外からドアを開ける事ができない場合、必要に応じてスプレッターやカッター等を使用し、救助を行ってください。

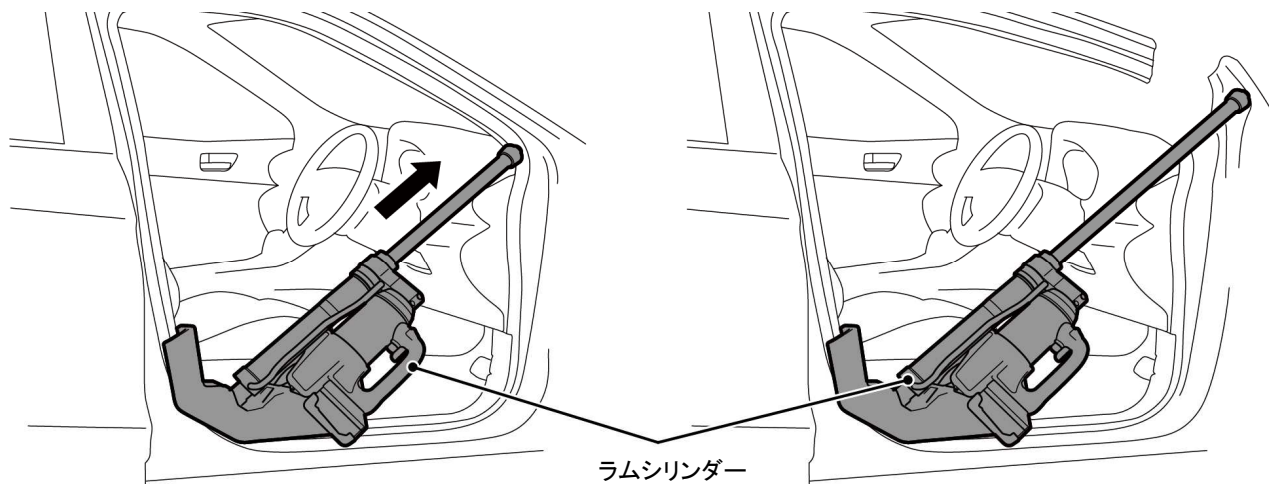
- 1) スプレッターの先端をドアラッチ部分に差込み、スプレッターを広げ、すき間を作ります。
- 2) 必要に応じてフェンダー部分をスプレッターにて圧縮して、ドアのヒンジ部分にすき間を作ります。
- 3) 作成したヒンジ部分のすき間にカッターを差込んで破壊し、ドアを開放してください。



NE0074EJM0

6. ラムシリンダーによる空間確保


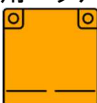
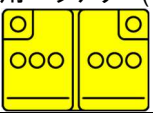

ボディーがつぶれて乗員救助を行う事ができない場合、ラムシリンダーを使用してつぶれたボディーを押し広げ、救出するすき間を確保してください。必要に応じて、ピラー部をカットし拡張してください。



NE0075EJM0

5.使用されている液体類・駆動用バッテリーについて

使用されている液体類

	容量	色
フューエルタンク 	53 L	薄いオレンジ
駆動用バッテリー 	総電圧 355 V 総電力量 22.7 kWh	無色透明
補機用バッテリー(12V) 	L1 (50 Ah 420 A)	無色透明
エンジンオイル	4.7 L	茶褐色
エンジン冷却水	8.3 ~ 8.8 L	青
モーター冷却水	4.7 L	青
ブレーキフルード	所要	無色透明
フロントモーターオイル	2.4 L	青
トランスアクスルオイル	3.32 L (フロント:2.47 L / リヤ: 0.85 L)	赤
冷媒ガス 	HFO-1234yf: ヒートポンプなし 645 ~ 685 g ヒートポンプあり 1110 ~ 1150 g	無色透明

⚠ 警告

駆動用バッテリーの電解液には可燃性の「リチウム塩を含む炭酸エステル溶液」を使用しています。



*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

引火性物質について

引火性物質	難燃性物質
・プラスチック ・電解質物質 ・オイル / ガソリン ・可燃性ガス ※ ・冷媒ガス ・その他	カーボンファイバー

※駆動用バッテリーが変形又は損傷したときに発生する可燃性ガス

駆動用バッテリーについて

駆動用バッテリー

- モーター及びエアコンを作動させるバッテリーです。この車には駆動用バッテリーの他に照明、ワイパーなどを作動させる補機用バッテリー(12V)も搭載しています。
- 駆動用バッテリーには、高エネルギー密度のコンパクトで軽量なリチウムイオンバッテリーを使用しています。

救助作業時の注意点

- プラグインハイブリッドEV システムは、最大で650Vの直流高電圧が使用されるため、システム起動中や起動後、車両が止まったときに高温になることがあります。車両に貼り付けているラベルに従い、高電圧と高温に注意してください。
- 駆動用バッテリー及び関連部品には電圧がかかっており、常に駆動用バッテリーは満充電の状態であると考えてください。
- READY(走行可能)表示灯が点灯しているとき、及び充電ランプが点灯・点滅しているときは、高電圧システムが作動しているため、絶対に作業や救助を行わないでください。

変形・損傷があるとき

- 駆動用バッテリー付近から液体の漏れ、火花、煙、火炎、ゴボゴボ音、シューシュー音、又はパーンという音がする場合はバッテリー火災のおそれがあります。すぐに消防に連絡してください。
- 車両又は駆動用バッテリーが損傷している場合は、有毒ガスや可燃性ガスが発生して発火するおそれがあります。事故後しばらく時間が経過してからガスが発生することもあるため、注意してください

液漏れの場合

- 駆動用バッテリーの電解液は無色透明の液体で、ほのかに甘い香りがし、粘度は水とほぼ同じです。
- 電解液は電池セル内部の電極体やセパレーターに浸透するため、万が一駆動用バッテリーが損傷しても、駆動用バッテリーから大量の電解液が流出することはありません。
万が一、駆動用バッテリーから電解液が流出している場合は、可燃性ですので速やかに火気から遠ざけてください。十分な換気を行い、耐溶剤性保護具を着用し、柔らかい布やウエスなどで電解液を拭き取ります。
- 漏れた電解液とその蒸気は、空気中の水と反応して酸性物質を生成し、目や皮膚を刺激する可能性があります。万が一、電解液が皮膚に付着したり、目に入った場合は、大量の流水で洗い流し、すぐに医師の診察を受けてください。
- 駆動用バッテリーの電解液以外の液体は、ガソリン車で使用される一般的な自動車用の液体と同じです。駆動用バッテリーの電解液を除く、その他の液体は、ガソリン車専用品と同じ方法で取り扱ってください。

注意

電解液の液漏れを掃除する際に使用した布や吸着マットは、各国の法律に従って廃棄してください。

6. 車両が火災の場合

1. 車両火災

車両火災の場合は、直ちに消防署に連絡し、以下の手順で消火を開始してください。

大量の水又は ABC 粉末消火器を使用して消火及び冷却してください。

駆動用バッテリー部分からの火災の場合、車両の中心から火災又は煙が放出されます。

注意

取扱いを誤ると感電など重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分注意してください。

- 1) 駆動用バッテリーは、万が一破損しても大量に電解液が外部に流出しない構造となっています。
- 2) 駆動用バッテリーの電解液には可燃性の「リチウム塩を含む炭酸エステル溶液」を使用しています。
この電解液は、空気中の水分と反応すると人体に有害な酸性の蒸気を発生します。
- 3) 電解液を取り扱う際には、有機ガス用マスク・耐溶剤性の手袋・保護メガネ等を使用してください。



*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

2. 消火



ABC 粉末消火器又は大量の水を使用してください。

*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

警告

海水や塩分を含む水は絶対に使用しないでください。

注意

- ・ 消化時には、以下の安全距離に注意してください。
- ・ 噴霧時による消火時： 1m 以上の距離を保ち、消火してください。
- ・ 全開放時(棒状)による消火時： 5m 以上の距離をとり、消火してください。

1) 消火器での消火

使用する消火器は、油火災(ガソリン、石油、油などによる火災)、電気火災(電気配線、電気機器などによる火災)の両方に有効な消火器を使用してください。(ABC 粉末消火器など)

2) 水での消火

消火栓など大量の水が確保できる場合のみ水による消火が可能です。

また、消火に使用する水は水道水や井戸水などの塩分を含まない水である必要があります。

少量の水による消火は危険なので絶対に行わないでください。

駆動用バッテリー内部に少量の水が侵入した場合、内部ショートを起こして有毒ガスを発生させる可能性があります。

塩分を含まない大量の水が確保できない場合は、消防隊が到着するまで安全な場所に退避してください。

注意

消火の際に使用した水が駆動用バッテリー内部に入った可能性がある場合は、車両が水没している場合と同様に扱ってください。(7.車両が水没している場合 参照)

3) 高電圧の遮断

警告

火災消火後の車両は、感電などの事故の危険性があります。
高電圧ケーブルの絶縁が火災による高温などにより損傷している場合があるため、
車両に近づく際は必ず絶縁保護具を着用してください。



以下の手順で高電圧を遮断してください。

- 1) パワースイッチの電源モードを OFF にする。(2-1. 参照)
- 2) 「補機用バッテリー(12V)」マイナス端子を切り離す。(3-5. 参照)
備考:テールゲートの操作方法 (3-4. 参照)
- 3) 「パワーコントロールユニット」用ヒューズを取外す。(3-6. 参照)
- 4) 「サービスプラグ」を取外す。(3-7. 参照)

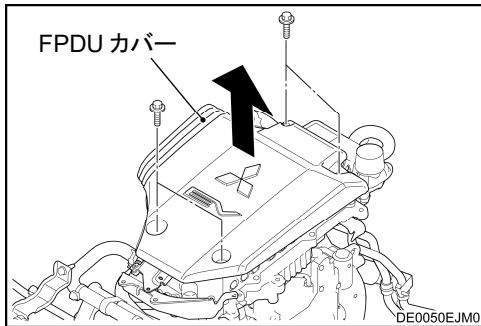
4) 高電圧の遮断状況の確認

警告

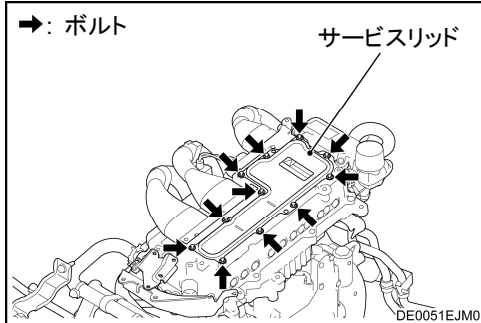
高電圧の遮断状況を確認する際は、必ず絶縁保護具を着用してください。



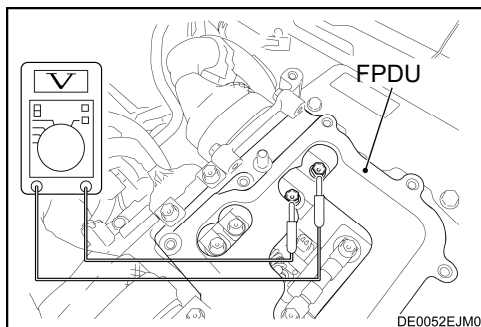
以下の手順でフロントパワードライブユニット (FPDU) に接続されている高電圧ケーブルの電圧値を確認してください。



- 1) FPDU カバーを取外す。



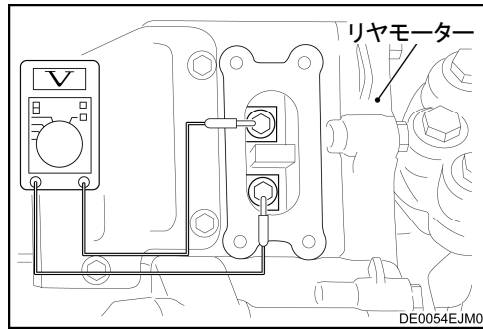
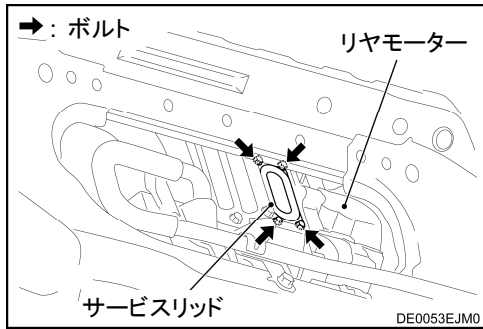
- 2) FPDU のサービスリッドを取外す。



- 3) 高電圧用のサーキットテスターを使用して、図示のように電圧値を測定する。
正常値: 約 0 V

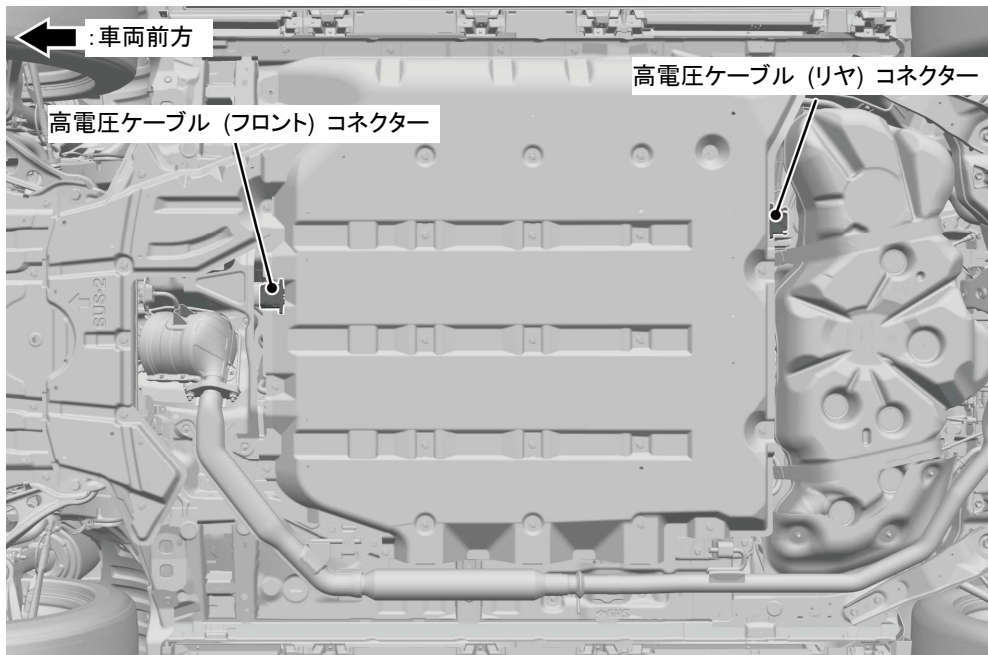
以下の手順でリヤモーターに接続されている高電圧ケーブルの電圧値を確認してください。

- 1) 車両をリフトアップする。
- 2) リヤモーターのサービスリッドを取外す。

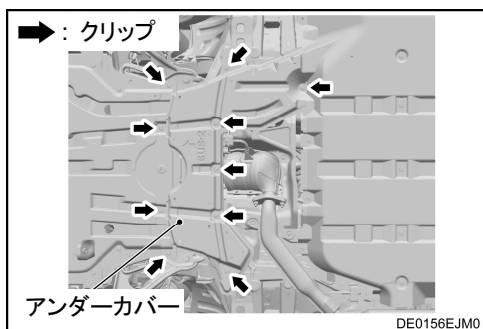


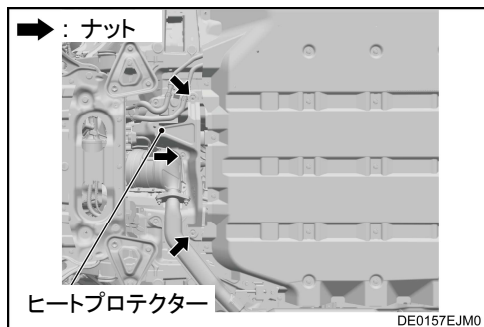
- 3) 高電圧用のサーキットテスターを使用して、図示のように電圧値を測定する。
正常値: 約 0 V

FPDU 又はリヤモーターから電圧が計測された場合は、以下の手順で駆動用バッテリーから高電圧ケーブル (フロント、リヤ) コネクタを切離してください。



- 1) 車両をリフトアップする。
- 2) アンダーカバーを取外す。

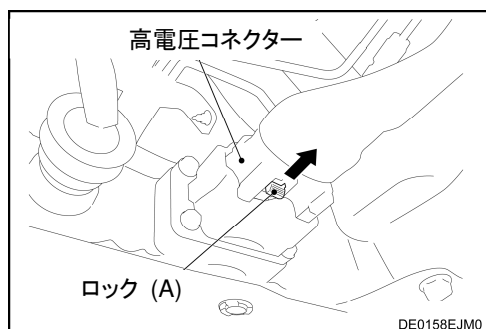




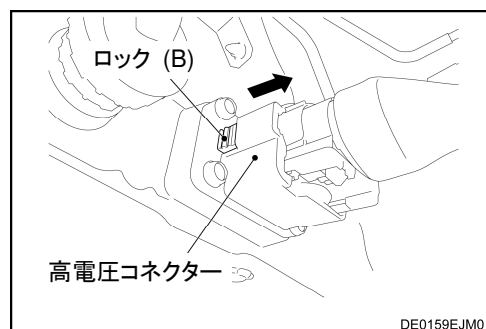
3) ヒートプロテクターを取外す。

4) 以下の手順で駆動用バッテリーから高電圧ケーブル (フロント) コネクタを切離す。

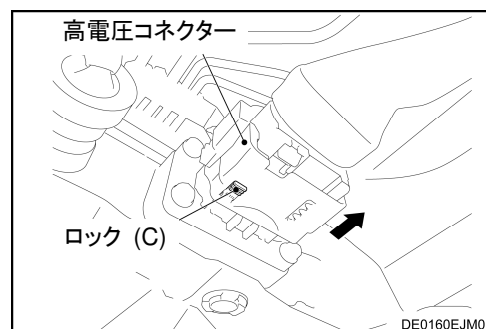
a) コネクタのロック (A) を矢印方向へ動かす。



b) ロック (B) を押しながら矢印方向に止まるまでコネクタを引く。

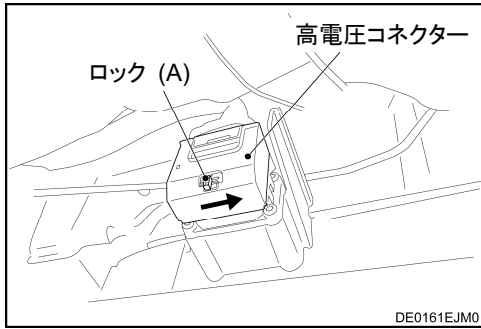


c) ロック (C) を押しながら矢印方向にコネクタを引抜く。

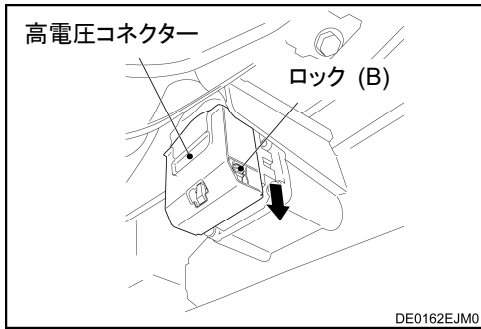


5) 以下の手順で駆動用バッテリーから高電圧ケーブル (リヤ) コネクタを切離す。

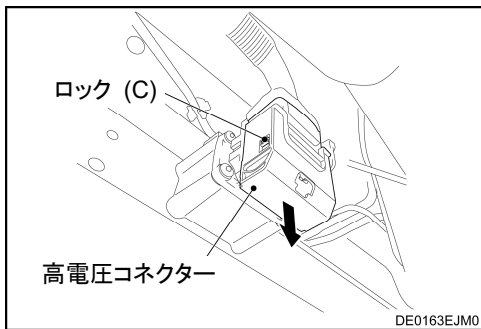
a) コネクタのロック (A) を矢印方向へ動かす。



b) ロック (B) を押しながら矢印方向に止まるまでコネクタを下げる。



c) ロック (C) を押しながら矢印方向にコネクタを引抜く。



*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

7. 車両が水没している場合

1. 車両水没

警告

- ・ 駆動用バッテリー内に塩分を含んだ水が浸入した場合、可燃性の水素ガスや火災が発生するおそれがあります。
- ・ 塩分による急激な電気分解で大量の水素が発生し、引火の可能性があります。
- ・ 車室内に水素ガスが充満する可能性があるため、窓やドアを開放してください。

注意

駆動用バッテリー及び高電圧機器が水に浸かっている場合は水没扱いになります。

駆動用バッテリーが損傷している場合、水が駆動用バッテリー内に入るおそれがあります。

駆動用バッテリー内に少量の水が浸入した場合、内部の短絡による異常過熱や発火のおそれがあります。

作業要領

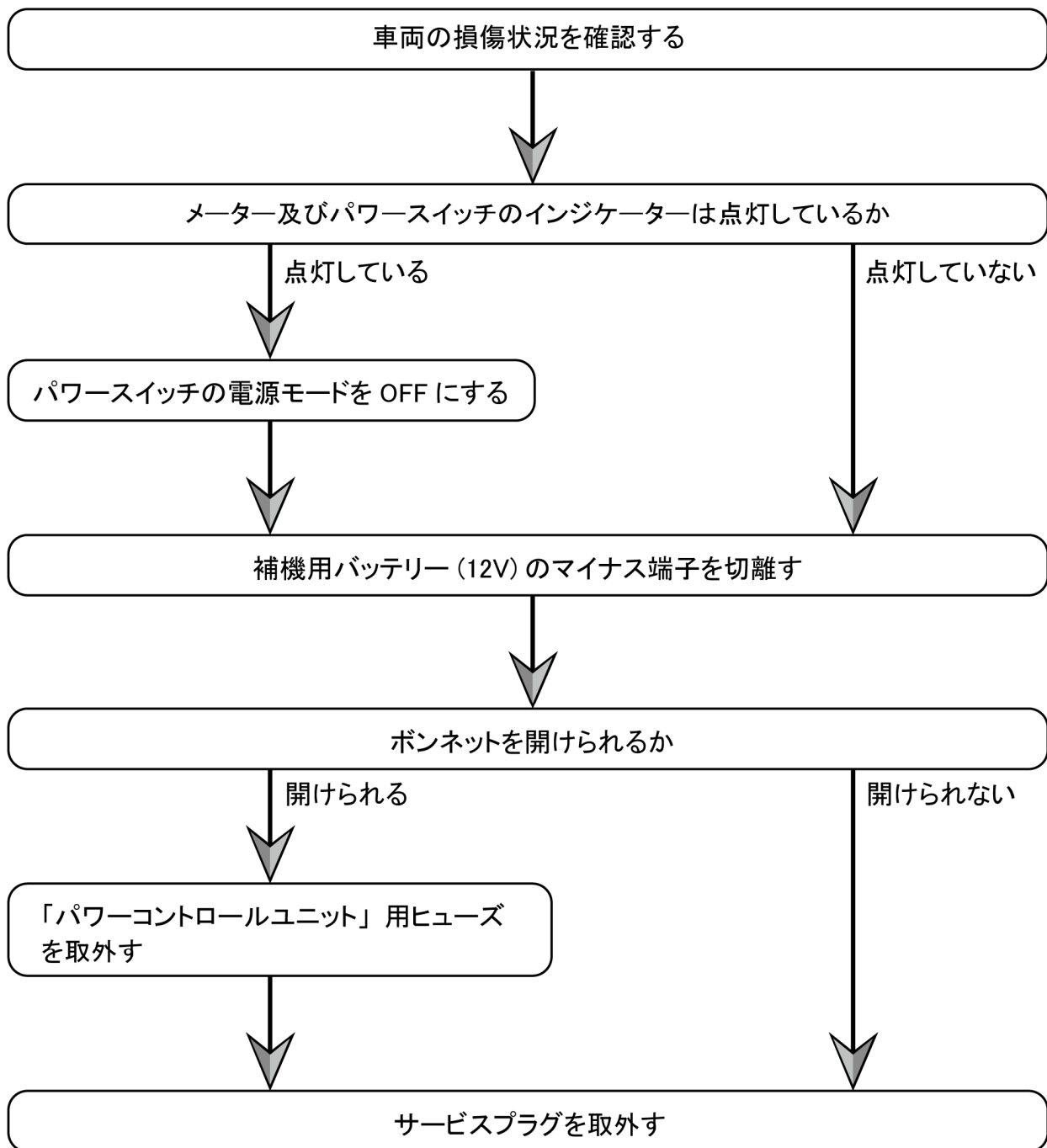
車両が水没又は部分的に水没している場合は、以下の要領で作業を実施します。

- 1) 乗員救助を行い、車両を水から引き上げます。
- 2) 車両に損傷がないか確認してください。以下の状態が確認された場合は、駆動用バッテリーやオレンジ色の高電圧配線に触れないように絶縁保護具を着用の上、注意しながら作業を行ってください。
 - 車両の損傷が激しい場合
 - 駆動用バッテリーが変形・損傷、内部の部品が露出している場合
 - 駆動用バッテリーの損傷状態が把握できない場合

注意

駆動用バッテリーが損傷している場合は、お近くの三菱自動車特約販売会社へ処理方法を確認してください。

3) 以下のフローチャートに従い、高電圧電源を遮断します。車両の状況によっては高電圧電源が遮断できない場合もあるため、遮断処置実施後も絶縁保護具を着用の上、注意しながら作業を行ってください。



DE0025EJM0

高電圧遮断処置手順

- パワースイッチの電源モードを OFF にする方法 [\(2-1. 参照\)](#)
- テールゲートの操作方法 [\(3-4. 参照\)](#)
- 「補機用バッテリー(12V)」 マイナス端子切り離し方法 [\(3-5. 参照\)](#)
- 「パワーコントロールユニット」用ヒューズの取外し方法 [\(3-6. 参照\)](#)
- 「サービスプラグ」の取外し方法 [\(3-7. 参照\)](#)



*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

8.車両の運搬及びけん引

1. レッカー車などでの運搬方法

事故などで車体や足まわりに損傷を受けた車両をレッカー車などで運搬する場合は、必ず4輪すべて持ち上げた状態で運搬してください。

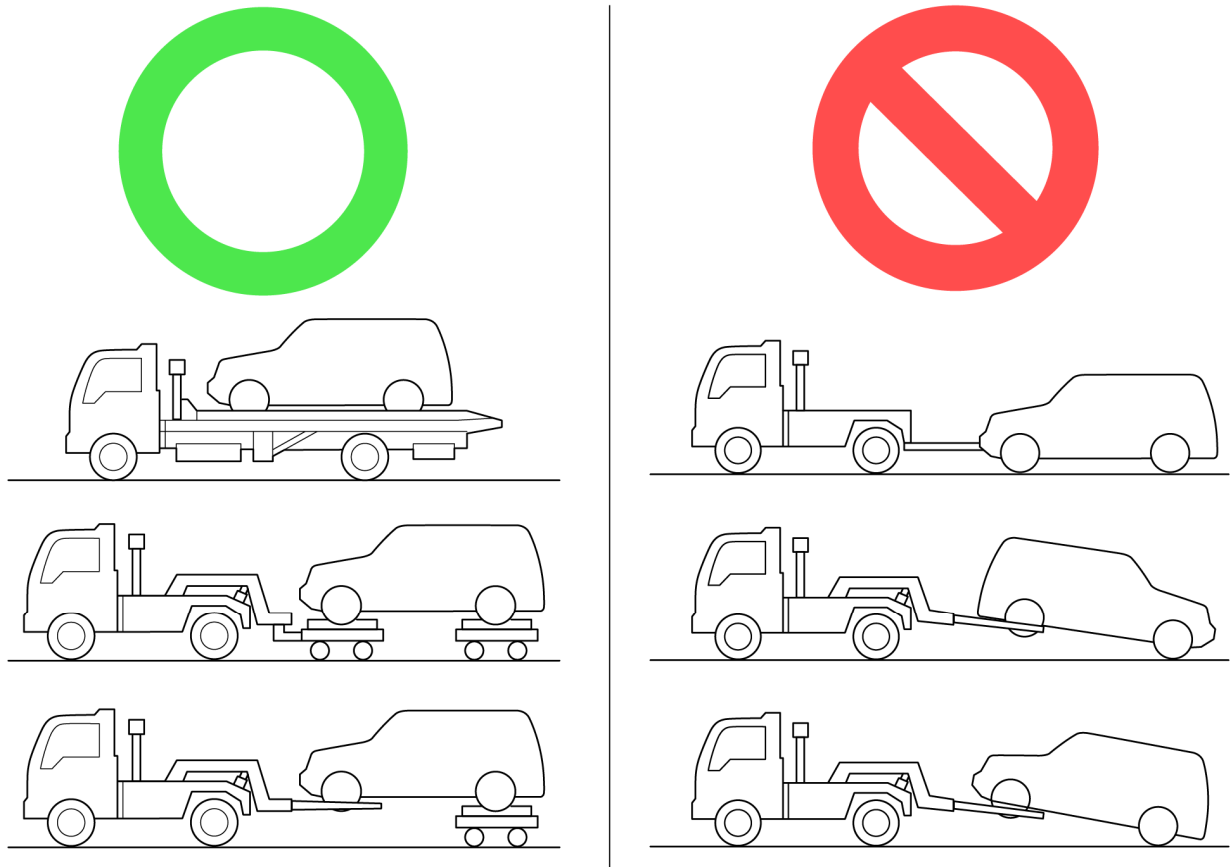
- 車両寸法 (1-4. 参照)

⚠ 警告

- ・ 必ず絶縁保護具を着用し、処理を行ってください。
- ・ 車両をクレーンやリフト等で持ち上げる際は、ホイールではなく、車体を持ち上げてください。その際、クレーンやリフトと車体間に絶縁シートを使用し、持ち上げてください。
- ・ 前輪及び後輪を接地してのけん引はしないでください。モーターやトランスアクスルなどが損傷するおそれがあります。
- ・ 高電圧の漏電が懸念される場合は、タイヤのみが積載面と接するように積車してください。
車両の状態などにより、ボディー等の金属部分が積載面と接してしまう場合は、絶縁シートを間に挟んでください。
- ・ 火災時等、状況によっては駆動用バッテリーが路面に固着している場合がありますので、路面から取外す際は金属製の工具類を使用しないで下さい。
- ・ 駆動用バッテリーのみを運搬する場合は、積載面に絶縁シートを敷き、絶縁シートの上に駆動用バッテリーを載せ、上から非通電性のカバーを被せ運搬してください。
- ・ 車両及び、駆動用バッテリーには高電圧識別ラベルなどを貼り付けてください。

⚠ 注意

補機用バッテリー(12V)が電圧不足や上がっているとき、端子を外しているときは、Pレンジから切り換わりません。



NE0024EEM0

- 図は車載の一例を示します。
- 積車時は、車両を損傷させないよう十分注意してください。

2. けん引方法 (非常時のみ)

⚠ 警告

プラグインハイブリッド EV システムを起動せず、パワースイッチの電源モードを ON にしてけん引すると、けん引中に補機用バッテリーが上がる場合があります。

この場合、ブレーキの効きが非常に悪くなり、ハンドル操作が非常に重くなります。

⚠ 注意

以下の運転支援システムは、けん引時の思わぬ事故や予期しない作動を防ぐため、作動を停止させてください。

- ・ マイパイロット* (マイパイロットを OFF にする 参照)
- ・ 衝突被害軽減ブレーキシステム(FCM) / 前方衝突予測警報(PFCW) (衝突被害軽減ブレーキシステム(FCM) / 前方衝突予測警報(PFCW)を OFF にする 参照)
- ・ 踏み間違い衝突防止アシスト(EAPM) (踏み間違い衝突防止アシスト(EAPM)を OFF にする 参照)
- ・ ブレーキオートホールド (ブレーキオートホールドを OFF にする 参照)
- ・ イノベティブペダルオペレーションモード (イノベティブペダルオペレーションモードを OFF にする 参照)
- ・ すべての車輪が地面にある状態で他の車両にけん引される場合は、トランスアクスルの損傷を防ぐために、以下に示すけん引速度と距離を超えないようにしてください。
- ・ **けん引時の速度: 30 km/h** ・ **けん引時の距離: 30 km**

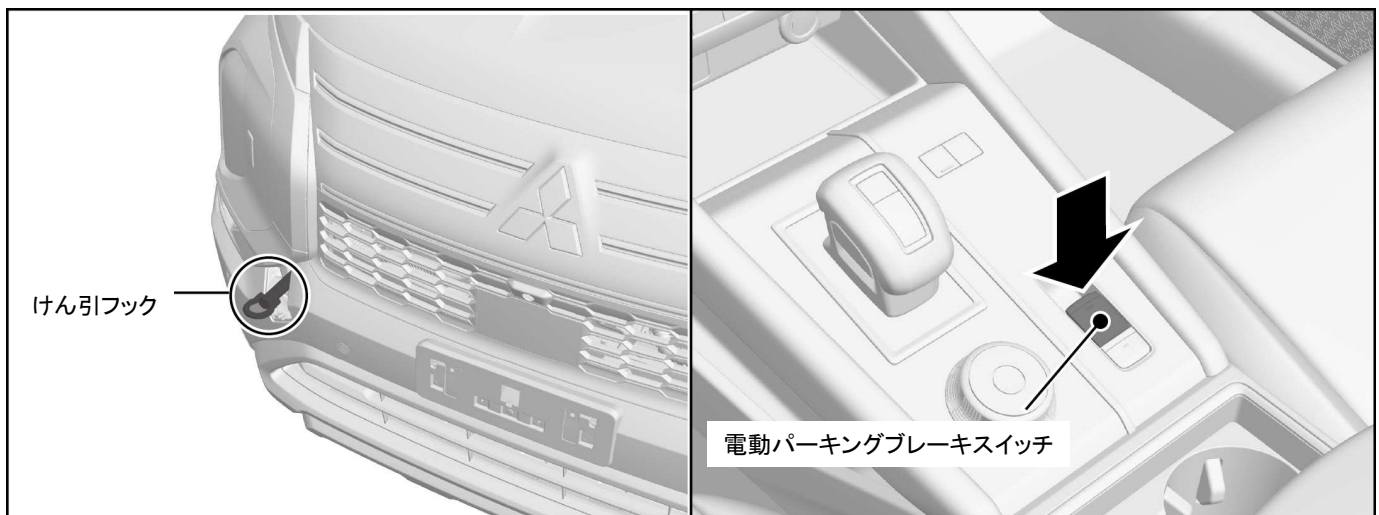
*レーダークルーズコントロールシステム[ACC]など

- 1) 先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、フロントバンパーのカバーの溝に差し込んでカバーを外します。
- 2) 金属の固い棒などを使用して、けん引フックを取付けます。
- 3) けん引ロープをけん引フックにかけます。
- 4) けん引ロープには、30cm 平方(縦 30cm×横 30cm)以上の白い布を必ずつけてください。(車間は5m以内)
- 5) プラグインハイブリッド EV システムを起動します。プラグインハイブリッド EV システムが起動できないときは、パワースイッチの電源モードを ON にします。
- 6) セレクトポジションを"N"にします。
- 7) パーキングブレーキを解除します。
ブレーキペダルを踏んだまま電動パーキングブレーキスイッチを押し解除します。
メーター内の表示灯が消灯していることを確認してください。

📖 アドバイス

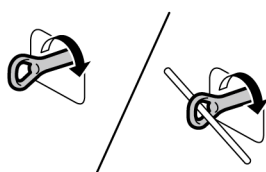
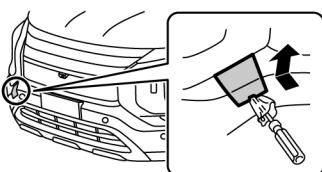
車両の不具合等によりスイッチ操作で解除できない場合は、手動による解除方法を実施してください。(8-3. 参照)

- 8) 後続車に注意をうながすため、けん引される車は非常点滅灯を点滅させます。
- 9) けん引中は、両車両のドライバーが接近間隔を維持していることを確認し、車両は低速で走行させます。



DE0126EJM0

📖 アドバイス

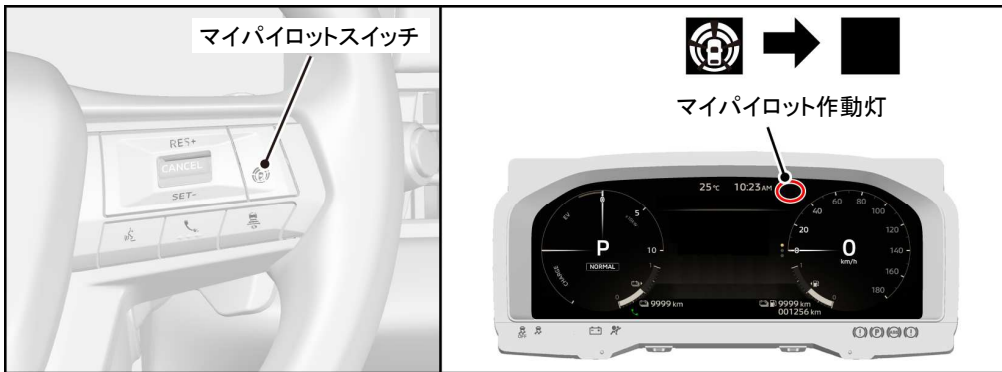


DE0069EJM0

- ・ けん引フックの取付けは、先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、フロントバンパーのカバーの溝に差し込んでカバーを外してください。金属の固い棒などを使用して、けん引フックを右時計回りに回して取付けます。
- ・ けん引フックは、ラゲッジルームに格納されています。

マイパイロットを OFF にする

マイパイロットが ON のときは、マイパイロットスイッチを押すとマイパイロットは OFF します。機能を OFF にするとマイパイロット作動灯が消灯します。



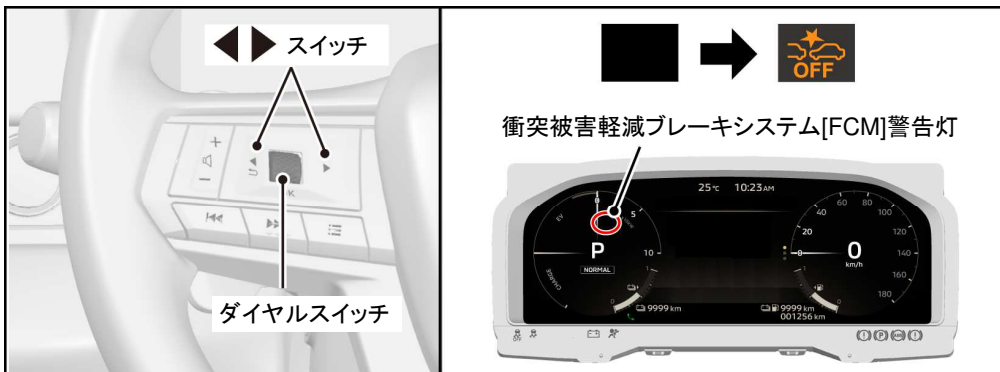
DE0064EJM0

衝突被害軽減ブレーキシステム(FCM)／前方衝突予測警報(PFCW)を OFF にする

マルチインフォメーションディスプレイで「設定」⇒「運転支援」⇒「緊急支援」⇒「前方衝突防止支援」を選択すると、FCM 機能の ON・OFF を切り替えることができます。機能を OFF にすると FCM 警告灯が点灯します。

📖 アドバイス

衝突被害軽減ブレーキシステム(FCM)を OFF にすると、前方衝突予測警報(PFCW)の機能も OFF になります。



DE0065EJM0

踏み間違い衝突防止アシスト(EAPM)を OFF にする

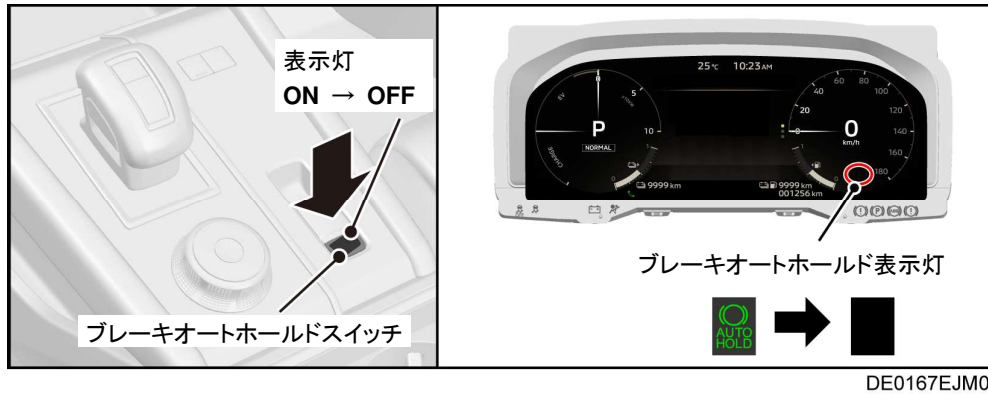
マルチインフォメーションディスプレイで「設定」⇒「運転支援」⇒「緊急支援」⇒「踏み間違い衝突防止アシスト」を選択すると、EAPM の ON・OFF を切り替えることができます。機能を OFF にすると EAPM 警告灯が点灯します。



DE0066EJM0

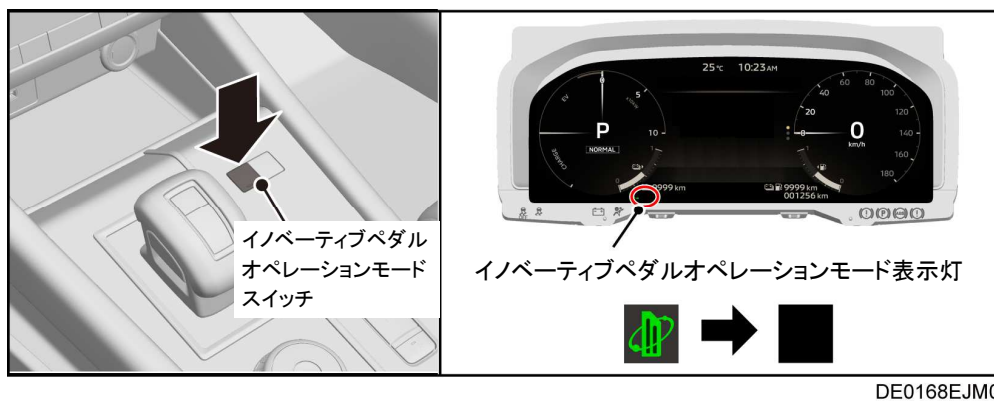
ブレーキオートホールドを OFF にする

ブレーキオートホールド機能が ON のとき、ブレーキペダルを踏みながらブレーキオートホールドスイッチを押すと、スイッチの表示灯が消灯しブレーキオートホールド機能が OFF になります。また、ブレーキオートホールド表示灯が消灯します。



イノベティブペダルオペレーションモードを OFF にする

イノベティブペダルオペレーションモードスイッチを押すごとに ON・OFF が切り替わります。機能を OFF にするとイノベティブペダルオペレーションモード表示灯が消灯します。

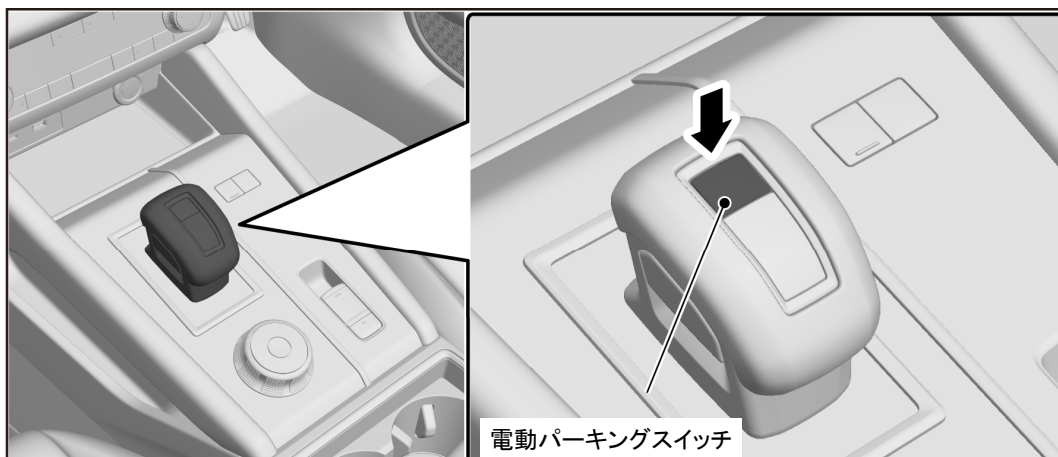


3. 電動パーキングブレーキ(EPB)の手動による解除方法

⚠ 注意

緊急の場合のみ、電動パーキングブレーキを手動で解除してください。

- 1) 車両を駐車し、電動パーキングスイッチを押してから、車両を輪止めで固定してください。



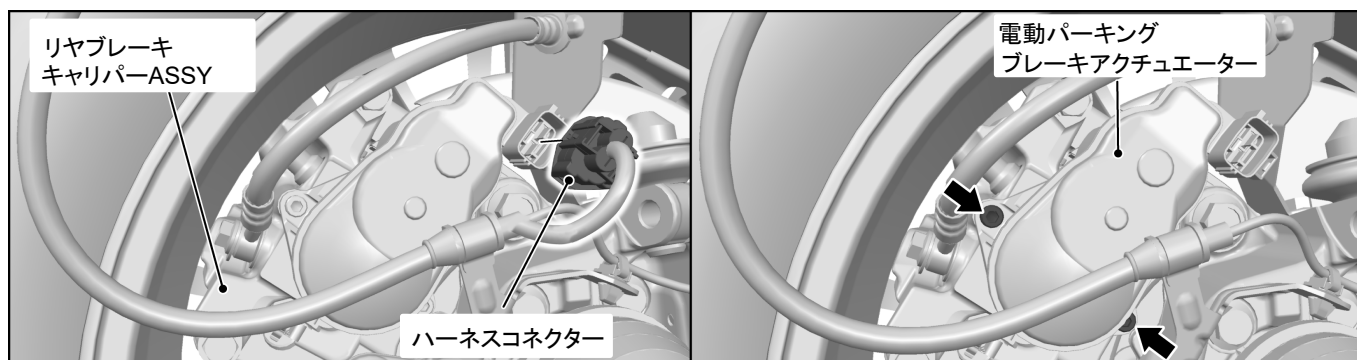
DE0170EJMO

- 2) 補機用バッテリー(12V)からマイナス端子を取外してください。(3-5. 参照)

⚠ 注意

- ・ コネクター周辺に泥や水等が付着している場合は清掃してから取外してください。
- ・ コネクター内に泥や水等が付着しないように注意してください。

- 3) 電動パーキングブレーキアクチュエーターとハーネスコネクターを切り離してください。
- 4) ボルト2本を取外し、リヤブレーキキャリパーASSYから電動パーキングブレーキアクチュエーターを取外してください。



DE0028EJMO

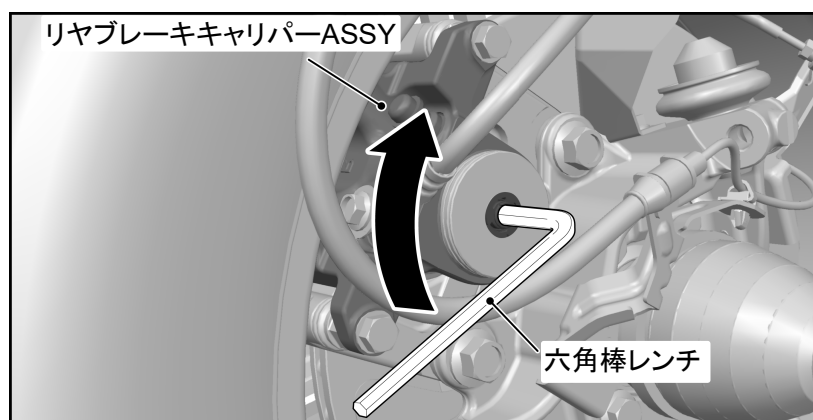
- 5) リヤブレーキキャリパーASSYに六角棒レンチ(6 mm)を差込み、時計回りに2回転回してください。

⚠ 警告

解除と同時に車両が動き出すおそれがあるので、必ずブレーキペダルを踏みながら解除してください。

⚠ 注意

ブレーキフルードがあふれるおそれがあります。



DE0029EJMO

9. 補足情報

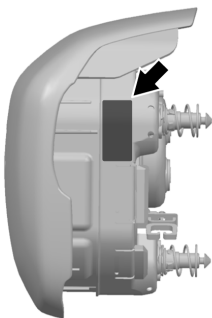
1. エアバッグ システム

構成図 [\(1-3. 参照\)](#)

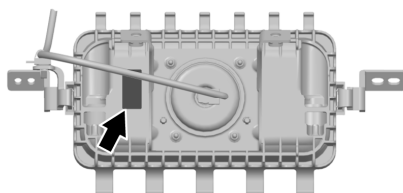
コーションラベル

SRS エアバッグ、プリテンショナー付シートベルトの取扱いや整備を行う上での注意すべき事項を示したラベル類を
図の位置に貼付けています。

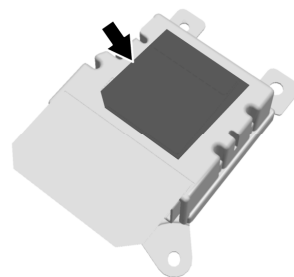
運転席エアバッグモジュール



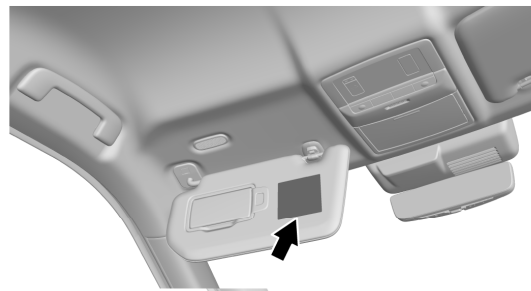
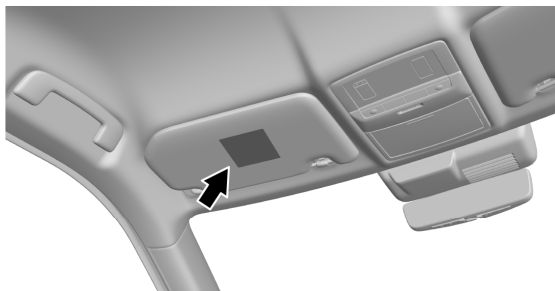
助手席エアバッグモジュール



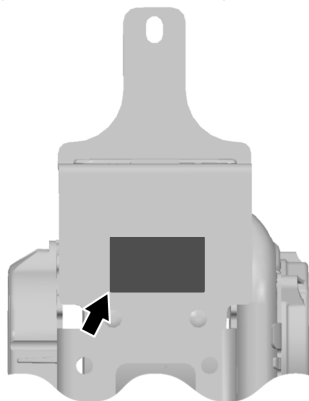
SRS-ECU



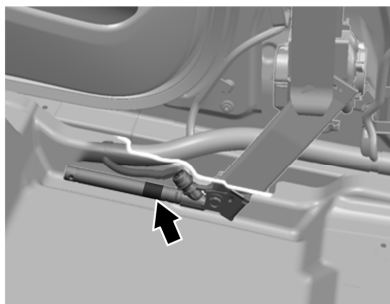
サンバイザー



シートベルトプリテンショナー
(運転席、助手席、リヤ)



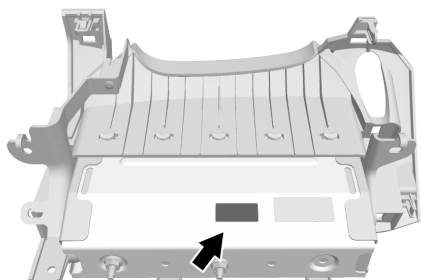
ラッププリテンショナー



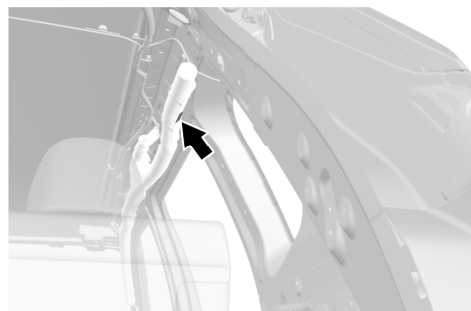
サイドエアバッグモジュール



運転席ニーエアバッグモジュール

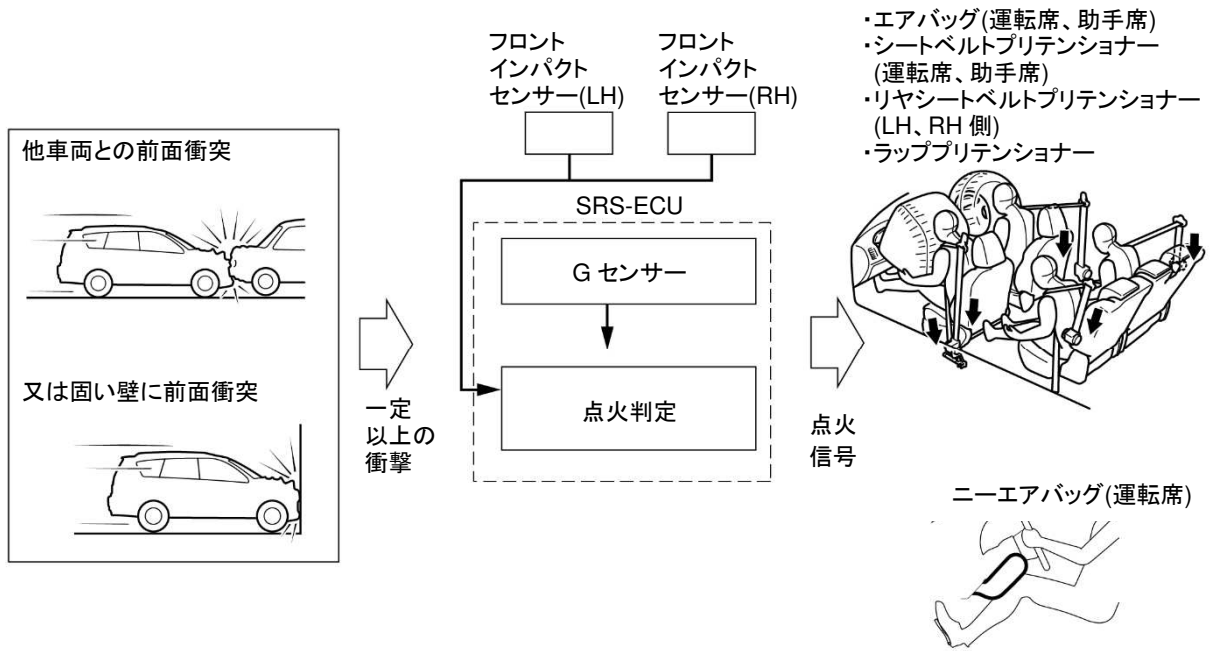


カーテンエアバッグモジュール



作動説明

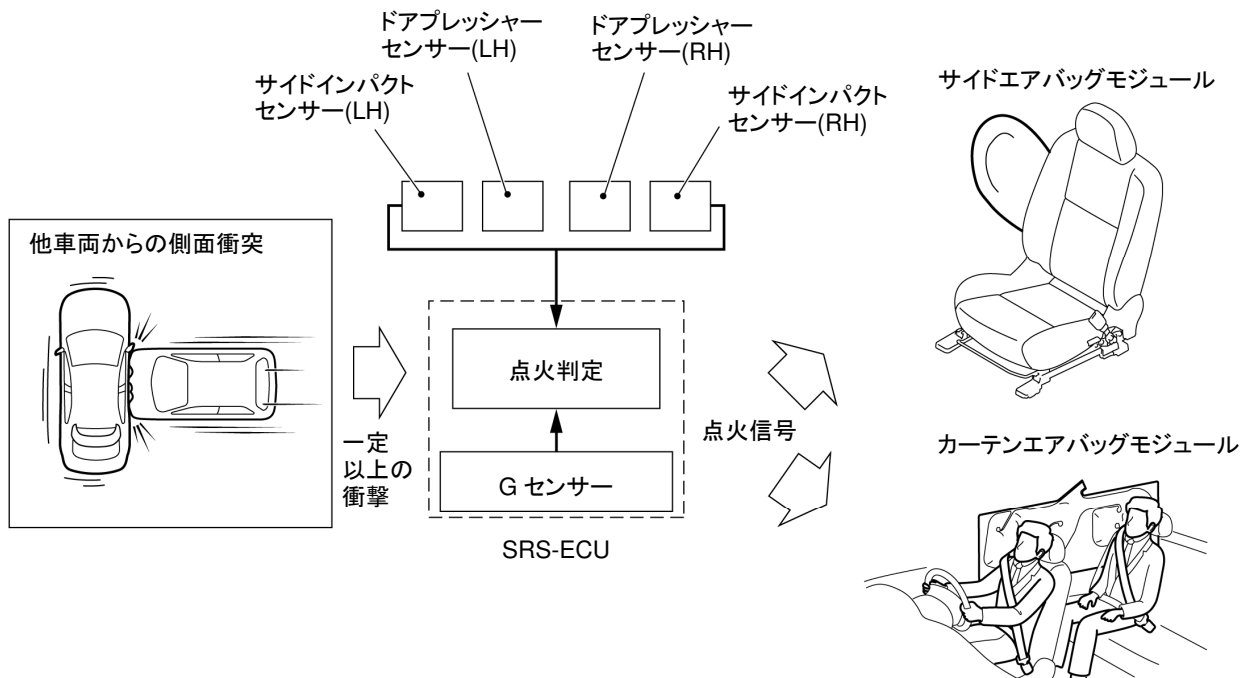
フロントエアバッグ・プリテンショナー



NE0044EJM0

前面衝突時、エンジンルーム内のフロントインパクトセンサー及び SRS-ECU 内の G センサーが同時に一定以上の衝撃を感知した(ONした)場合に、SRS-ECU から運転席、助手席エアバッグモジュール(スクイブ)、運転席、助手席シートベルトプリテンショナー(スクイブ)、リヤシートベルトプリテンショナー(スクイブ)、ラッププリテンショナー(スクイブ)及び運転席ニーエアバッグモジュール(スクイブ)に電流が流れ、エアバッグが展開するとともにプリテンショナーが作動します。

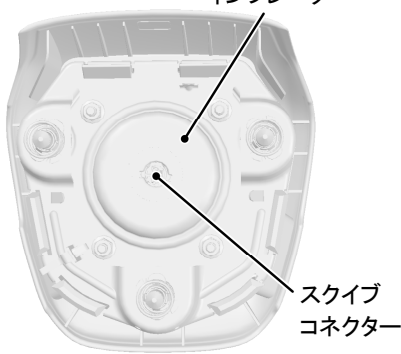
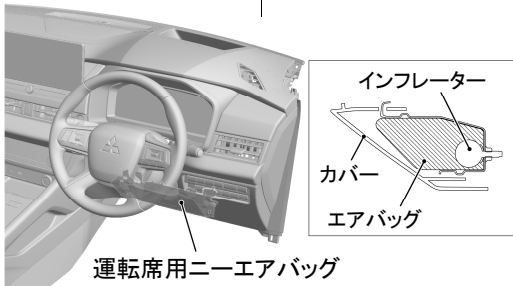
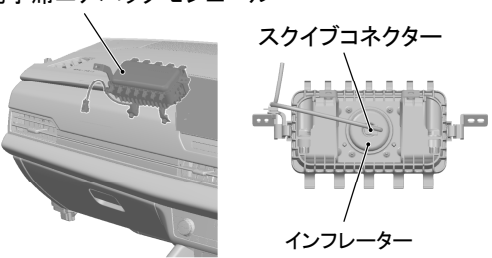

サイドエアバッグ・カーテンエアバッグ・シートベルトプリテンショナー


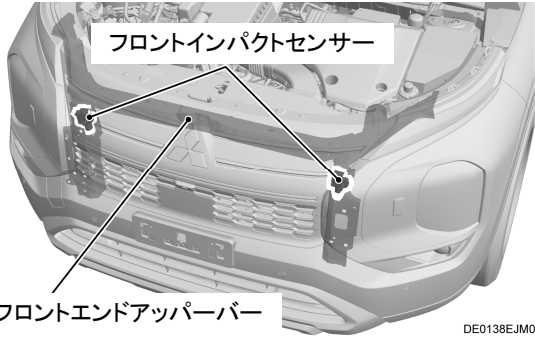
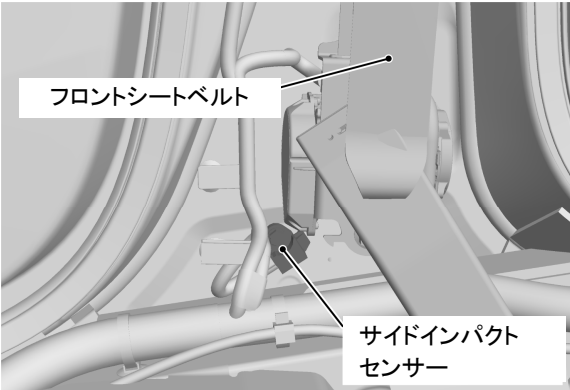
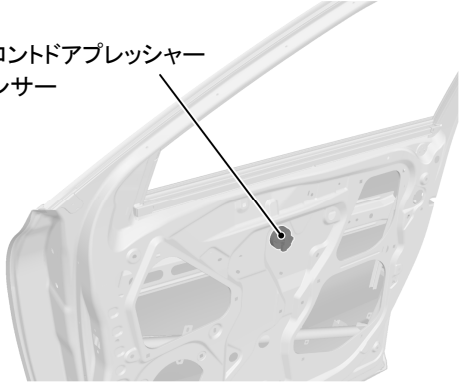


DE0032EJM0

側面衝突時、センターピラーインナー下部及びクォーターパネル下部に設置したサイドインパクトセンサー又はフロントドアパネルに設置したフロントドアプレッシャーセンサーと SRS-ECU 内の G センサーが同時に一定以上の衝撃を感知した(ONした)場合に、SRS-ECU から衝撃を受けた側のサイドエアバッグモジュール(スクイブ)、カーテンエアバッグモジュール(スクイブ)及びフロント・リヤシートベルトプリテンショナー(スクイブ)に電流が流れ、エアバッグが展開するとともにプリテンショナーが作動します。

構造説明

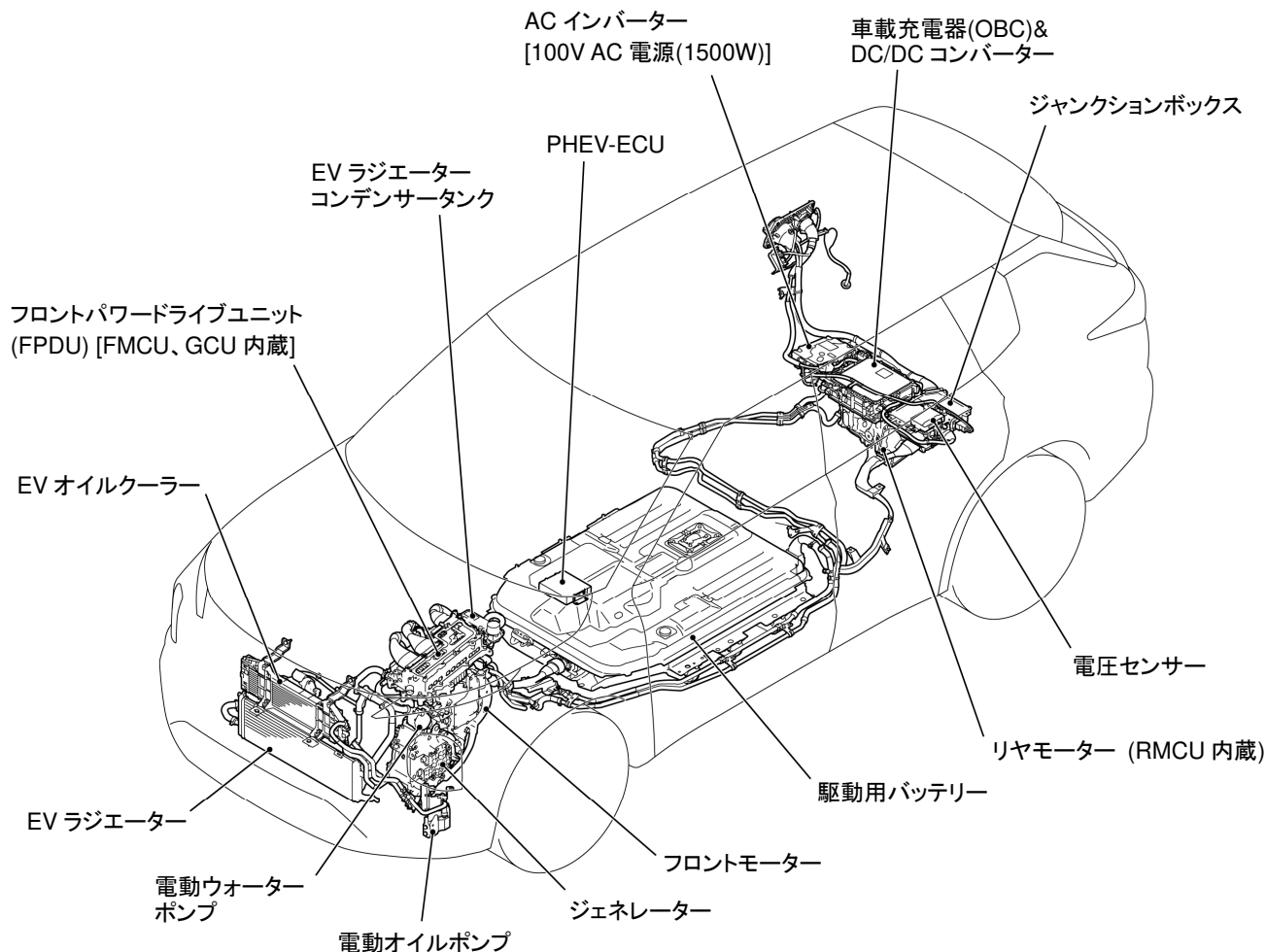
<p>運転席エアバッグ モジュール</p>	 <p>インフレーター</p> <p>スクイブ コネクター</p> <p>DE0033EJM0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運転席エアバッグモジュールのインフレーターは、エアバッグを展開させるために、スクイブコネクターを設けています。 ・ エアバッグは、内側にゴムコーティングされたナイロン製の布でできており、インフレーターからのガスにより膨らみます。その後、乗員がエアバッグに当たるにつれて、後部の2個の排気口からガスを排出しながら収縮し、衝撃を緩和します
<p>運転席 ニーエアバッグ モジュール</p>	 <p>インフレーター</p> <p>カバー</p> <p>エアバッグ</p> <p>運転席用ニーエアバッグ モジュール</p> <p>DE0134EJM0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運転席ニーエアバッグモジュールのインフレーターは、エアバッグを展開させるために、スクイブコネクターを設けています。ステアリングコラム下に取付けられ、運転席、助手席用のエアバッグと同様に、前面衝突時にエアバッグが展開し、運転席乗員の保護効果を高めます。
<p>助手席 エアバッグ モジュール</p>	 <p>助手席エアバッグモジュール</p> <p>スクイブコネクター</p> <p>インフレーター</p> <p>DE0135EJM0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 助手席エアバッグモジュールのインフレーターは、エアバッグを展開させるために、スクイブコネクターを設けています。 ・ エアバッグは、内側にゴムコーティングされたナイロン製の布でできており、インフレーターからのガスにより膨らみます。その後、乗員がエアバッグに当たるにつれて、後部の2個の排気口からガスを排出しながら収縮し、衝撃を緩和します。
<p>サイドエアバッグ モジュール</p>	 <p>サイドエアバッグモジュール</p> <p>DE0036EJM0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ サイドエアバッグモジュールは、エアバッグ、インフレーターとこれらの固定用部品で構成された部品で、運転席及び助手席のシートバックに取付けることにより、シート位置やリクライニング角度に関係なく、安定した保護性能が得られます。 ・ エアバッグは正面衝突用のエアバッグと同様で、内側にゴムコーティングされたナイロン製の布でできており、折り畳んだ状態でカバーに収納されています。エアバッグの縫製部には、一部にガス排気口が設けてあり、展開時における乗員への衝撃が緩和されます。

<p>カーテンエアバッグ モジュール</p>	<p>カーテンエアバッグモジュール</p>  <p>DE0137EJM0</p>	<ul style="list-style-type: none"> カーテンエアバッグモジュールは、エアバッグ、インフレーターとこれらの固定部品で構成され、小さく折り畳まれてルーフサイド部（運転席及び助手席のフロントピラーから車体後部のリヤピラー）に収納されています。 エアバッグは、内側にシリコンコーティングされたナイロン製の布でできており、側面衝突時などに展開し、その際に乗員頭部への衝撃を緩和します。
<p>フロントインパクト センサー</p>	<p>フロントインパクトセンサー</p>  <p>フロントエンドアッパーバー</p> <p>DE0138EJM0</p>	<ul style="list-style-type: none"> フロントインパクトセンサーは、エンジンルーム内のフロントエンドアッパーバーに取付けられており、フロントインパクトセンサー内には、アナログ G センサーが内蔵されています。 フロントインパクトセンサーは、コード化した加速度データを SRS-ECU に送信し、その加速度データを基に SRS-ECU がフロントエアバッグの展開を判断し、各スクイブに電流を流します。 SRS-ECU はフロントインパクトセンサーの内部構成部品の故障診断を行い、故障発生時には故障コードを出力します。
<p>サイドインパクト センサー</p>	<p>フロントシートベルト</p>  <p>サイドインパクト センサー</p> <p>DE0139EJM0</p>	<ul style="list-style-type: none"> サイドインパクトセンサーは、左右のセンターピラー下部及びクォーターパネル下部に取付けられており、サイドインパクトセンサー内には、アナログ G センサーが内蔵されています。 サイドインパクトセンサーは、コード化した加速度データを SRS-ECU に送信し、その加速度データを基に SRS-ECU がサイドエアバッグ及びカーテンエアバッグの展開を判断し、各スクイブに電流を流します。 SRS-ECU はサイドインパクトセンサーの内部構成部品の故障診断を行い、故障発生時には故障コードを出力します。
<p>ドアプレッシャー センサー</p>	<p>フロントドアプレッシャー センサー</p>  <p>DE0040EJM0</p>	<ul style="list-style-type: none"> フロントドアプレッシャーセンサーは、左右のフロントドアパネルの内側に取付けられており、フロントドアプレッシャーセンサーには、側面衝突時にドアの内部圧力を検知するセンサーが内蔵されています。 フロントドアプレッシャーセンサーは、コード化した加速度データを SRS-ECU に送信し、その加速度データを基に SRS-ECU がサイドエアバッグ及びカーテンエアバッグの展開を判断し、各スクイブに電流を流します。

<p>プリテンショナー付シートベルト</p>	<p>DE0041EJM0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プリテンショナー付シートベルトは、前面衝突時にシートベルトを自動的に巻き取り、乗員の前方移動量を低減します。 ・運転席、助手席及びリヤシートベルトプリテンショナーは、SRS-ECU からの電流が流れることによりガスジェネレーターを着火させ、ガスを発生させます。ガス圧によりボールがパイプ内を移動し、ピニオンギヤの凹み部分に当たりピニオンギヤと連結しているスピンドルが回転します。スピンドルが回転することでベルトを巻き取ります。
<p>ラッププリテンショナー</p>	<p>DE0042EJM0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ラッププリテンショナーは、正面衝突時にシートベルトを自動的に引き込み、乗員の前方移動量を低減します。 ・ラッププリテンショナーは、衝突時に車体前部に取付けられたフロントインパクトセンサーが規定以上の衝撃を感知すると SRS-ECU からの信号によりガスジェネレーターを着火させ、ガスが発生します。 ・ガス圧によりピストンに連結したワイヤーが進行方向に移動し、シートベルトが引き込まれます。その後、乗員の前方移動によりシートベルトに張力が加わると、クサビ作用によりボールがピストンとチューブとの間に食い込み、固着して引き込み位置を維持します。
<p>SRS-ECU</p>	<p>DE0043EJM0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SRS-ECU は、正面衝突用のアナログ G センサーに加え、側面衝突用の G センサーを内蔵しています。正面衝突時、エンジンルーム内のフロントインパクトセンサーと SRS-ECU 内の正面衝突用のアナログ G センサーが同時に衝突 G を検出した場合に、SRS-ECU は運転席・助手席エアバッグモジュール、運転席ニーエアバッグモジュール、運転席、助手席シートベルトプリテンショナー(スクイブ)及びリヤシートベルトプリテンショナー(スクイブ)に電流が流れます。側面衝突時は、サイドインパクトセンサーのアナログ G センサーと SRS-ECU の側面衝突用 G センサーが同時に横方向の衝突 G を検出した場合に、SRS-ECU は衝撃を受けた側のサイドエアバッグ、カーテンエアバッグモジュール(スクイブ)及びフロント・リヤシートベルトプリテンショナー(スクイブ)に電流が流れます。また、SRS-ECU はシステムの信頼性を高める次の機能を持っています。 ・衝突時の電源故障に備えた、電源バックアップ機能(バックアップコンデンサー) ・バッテリー電圧の低下に備えた、昇圧機能(DC-DC コンバーター) ・システムの点検を行うダイアグノシス機能

2. 駆動用バッテリー

構成図



DE0144EJM0

構造説明

<p>駆動用バッテリー</p>	<p>駆動用バッテリー</p> <p>バッテリーモジュール</p> <p>DE0145EJM0</p>	<p>駆動用バッテリーには、小型、軽量でエネルギー密度の高いリチウムイオン電池を採用しています。この駆動用バッテリーで、モーター（パワーユニット）の駆動および、空調制御システムの作動をさせています。駆動用バッテリーは、耐水性、耐熱性、耐振性、耐塵性に優れた堅牢な金属ケースに納められており、床下に配置されています。電池部分は、24 個の電池セルを直列に接続したモジュールが 4 個の構成で合計 96 個の電池セルが直列に接続されています。これにより、駆動用バッテリーは、355 V（公称値）の高電圧を発生させています。また、バッテリーの残量によっては最大作動電圧 408 V を発生する場合があります。</p>
<p>サービスプラグ</p>	<p>サービスプラグ</p> <p>差込み方向</p> <p>DE0046EJM0</p>	<p>サービスプラグは、2 席中央座席の足元に取付けられています。サービスプラグは、高電圧部品の点検・整備を行う前に取外すことで、高電圧回路を遮断し作業安全性を確保しています。また、サービスプラグのレバー部には接点式のスイッチが取付けられており、サービスプラグの接続状態検知に使用しています。</p>

<特徴>

- リチウムイオン電池の特性上、充電前にバッテリー残量を使い切る必要はありません。
- 駆動用バッテリーは、使用年月や使用条件により徐々に性能が低下します。
- 駆動用バッテリーは、外気温により性能が変化することがあります。
特に低温時は、常温時に比べて航続可能距離が短くなり、充電時間が長くなります。
- 極端に高温、低温な場所で車両を保管すると電池性能が低下することがあります。
- 駆動用バッテリーは、使用しなくても徐々に放電しバッテリー残量が減ります。

<取扱いの注意点>

- 長期間車両を使用しない場合は、3ヶ月ごとに駆動用バッテリー残量計の目盛を確認してください。
目盛が0であれば、目盛が表示されるまで充電するか、もしくはパワースイッチをREADYにして自動で始動したエンジンが停止するのを待ってからパワースイッチをOFFにしてください。
- 駆動用バッテリーの回収を行っております。廃車にするときは必ず三菱自動車販売会社に相談してください。

作業者：

危険！ 触るな！

高電圧作業中！！

高電圧作業中！！

危険！ 触るな！

作業者：

10.使用ピクトグラムの説明

	補機用バッテリー		SRS ユニット		キーレス距離
	パワースイッチ		エアバッグ インフレーター		シートベルト プリテンショナー
	高電圧ヒューズの 無効		エアバッグ		高電圧、感電注意
	高電圧ケーブル		シート前後調整		低温注意
	高電圧部品		シート高さ調整		エアコン部品
	サービスプラグ		ハンドル上下調整		ジャッキ支持位置
	フューエルタンク		ABC 粉末消火器を 使用し消火		水を使用し消火
	人体への有害性あり		可燃性/ 引火性ガスの 発生あり		爆発の危険性あり
	金属腐食、皮膚腐食、 眼に対する 重篤な損傷性あり				



**MITSUBISHI
MOTORS**

三菱自動車工業株式会社

東京都港区芝浦三丁目1番21号

msb Tamachi 田町ステーションタワーS